NEC Express5800シリーズ
Express5800/R140b-4

4

運用・保守編

装置の運用および保守について説明します。

日常の保守

装置を常にベストな状態でお使いになるために、ここで説明する確認や保守を定期的に行ってください。万一、異常が見られた場合は、無理な操作をせずに保守サービス会社に保守を依頼してください。

アップデートの確認・適用

Express5800シリーズでは、本体および周辺機器のBIOS、FW（ファームウェア）、ドライバなどのアップデート情報を弊社Webサイトの以下のページに掲載しています。システムの安定稼働のため、常に最新のアップデートを適用いただくことをお勧めいたします。

NEC コーポレートサイト　http://www.nec.co.jp/

[サポート・ダウンロード]－[PCサーバ/ブレードサーバ]

なお、本体のBIOS、FW（ファームウェア）につきましては、適用が必要なアップデートの検出・ダウンロード・適用をサポートするツール「ExpressUpdate」も提供しています。「ExpressUpdate」は、本体添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内に格納されています。

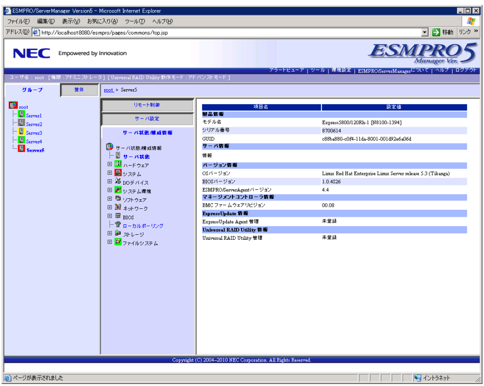
重要

- **最新アップデートのダウンロードおよび適用作業は、お客様自身で実施ください。**
- **最新アップデートの適用にあたっては、万一の場合に備えて、適用前にデータをバックアップされておくことをお勧めいたします。**

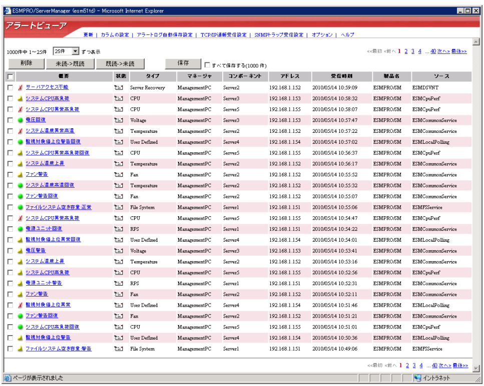
アラートの確認

ESMPRO/ServerManagerで監視対象サーバの状態色に異常がないこと、アラートが通報されていないことを常に注意するよう心がけてください。

ESMPROでチェックする画面



『ESMPRO/ServerManagerの[サーバ状態/構成情報]』



アラートビューア

STATUSランプの確認

本体の電源をONにした後、およびシャットダウンをして本体の電源をOFFにする前に、本体前面にあるランプや、2.5型ディスクベイに搭載しているハードディスクドライブのランプの表示を確認してください。ランプの機能と表示の内容については「ハードウェア編」の151ページをご覧ください。万一、本体の異常を示す表示が確認された場合は、保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。

バックアップ

定期的に本体のハードディスクドライブ内の大切なデータをバックアップすることをお勧めします。最適なバックアップ用ストレージデバイスやバックアップツールについてはお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ハードウェアの構成を変更したり、BIOSの設定を変更したりした後は、オフライン保守ユーティリティの「システム情報の管理」機能を使ってシステム情報のバックアップをとってください（132ページ参照）。

RAID システムを構築しているシステムでは、EXPRESSBUILDER を使用してRAID システムのコンフィグレーション情報をバックアップしてください。また、ハードディスクドライブの故障によるリビルドを行った後もコンフィグレーション情報をバックアップすることをお勧めします。コンフィグレーション情報のバックアップについては、第3章「ソフトウェア編」EXPRESSBUILDER を参照してください。

クリーニング

装置を良い状態に保つために定期的にクリーニングしてください。

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- **自分で分解・修理・改造はしない**
- **光ディスクドライブ内部をのぞかない**
- **プラグを差し込んだまま取り扱わない**

本体のクリーニング

本体の外観の汚れは、柔らかい乾いた布で汚れを拭き取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。

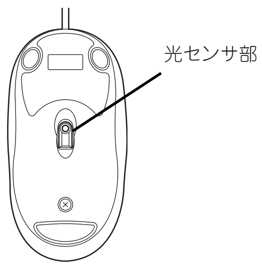
重要

- **シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の原因になります。**
- **コンセント、ケーブル、本体背面のコネクタ、本体内部は絶対に水などでぬらさないでください。**

1. 本体の電源がOFF（POWERランプ消灯）になっていることを確認する。
2. 本体の電源コードをコンセントから抜く。
3. 電源コードの電源プラグ部分についているほこりを乾いた布でふき取る。
4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞る。
5. 汚れた部分を手順4の布で少し強めにこすって汚れを取る。
6. 真水でぬらしてよく絞った布でもう一度ふく。
7. 乾いた布でふく。

キーボード/マウスのクリーニング

キーボードは装置および周辺機器を含むシステム全体の電源がOFF（POWERランプ消灯）になっていることを確認した後、キーボードの表面を乾いた布で拭いてください。
マウスは光センサ部が汚れていると正常に機能しません。光センサ部に付いた汚れは乾いた布で拭き取ってください。



ディスクのクリーニング

CD-ROMなどの光ディスクにほこりがついていたり、トレーにほこりがたまっていたりするとデータを正しく読み取れません。次の手順に従って定期的にトレー、ディスクのクリーニングを行います。

1. 本体の電源がON（POWERランプ点灯）になっていることを確認する。
2. 光ディスクドライブ前面のトレーイジェクトボタンを押す。

   トレーが光ディスクドライブから出てきます。

3. ディスクを軽く持ちながらトレーから取り出す。

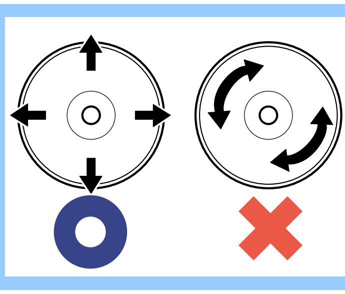
> **重要** ディスクの信号面に手が触れないよう注意してください。

4. トレー上のほこりを乾いた柔らかい布でふき取る。

> **重要** 光ディスクドライブのレンズをクリーニングしないでください。レンズが傷ついて誤動作の原因となります。

5. トレーを軽く押してトレーを光ディスクドライブに戻す。
6. ディスクの信号面を乾いた柔らかい布でふく。

> **重要** ディスクは、中心から外側に向けてふいてください。クリーナをお使いになるときは、専用のクリーナであることをお確かめください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーを使用すると、ディスクの内容が読めなくなったり、装置にそのディスクをセットした結果、故障したりするおそれがあります。



テープドライブのクリーニング

テープドライブのヘッドの汚れはファイルのバックアップの失敗やテープカートリッジの損傷の原因となります。定期的に専用のクリーニングテープを使ってクリーニングしてください。クリーニングの時期やクリーニングの方法、および使用するテープカートリッジの使用期間や寿命についてはテープドライブに添付の説明書を参照してください。

システム診断

システム診断は装置に対して各種テストを行います。
「EXPRESSBUILDER」の「Tool menu」から「Test and diagnostics」を選択して診断してください。

システム診断の内容

システム診断には、次の項目があります。

- 本体に取り付けられているメモリのチェック
- CPUキャッシュメモリのチェック
- システムとして使用されているハードディスクドライブのチェック

重要 **システム診断を行う時は、必ず本体に接続しているLANケーブルを外してください。接続したままシステム診断を行うと、ネットワークに影響をおよぼすおそれがあります。**

ヒント ハードディスクドライブのチェックでは、ディスクへの書き込みは行いません。

システム診断の起動と終了

システム診断には、本体に直接接続されたコンソール（キーボード）を使用する方法と、シリアルポート経由で接続されている管理PCのコンソールを使用する方法（コンソールレス）があります。
それぞれの起動方法は次のとおりです。

重要 **「保守ツール」では、コンソールレスでの通信方法にLANとCOMポートの2つの方法を記載していますが、コンソールレスでのシステム診断ではCOMポートのみを使用することができます。**

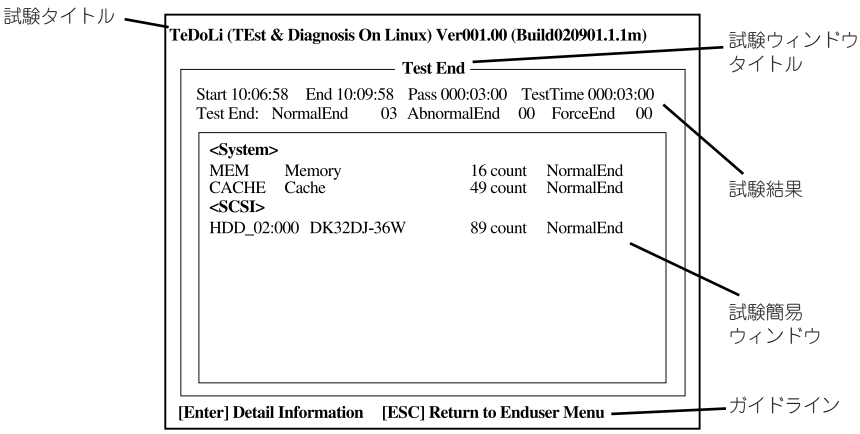
1. シャットダウン処理を行った後、本体の電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。
2. 本体に接続しているLANケーブルをすべて取り外す。
3. 電源コードをコンセントに接続し、本体の電源をONにする。
4. 「EXPRESSBUILDER」DVDを使ってシステムを起動する。

5. 本体のコンソールを使用して起動する場合は「Tool menu(Normal mode)」を、コンソールレスで起動する場合は「Tool menu(Redirection mode)」を選択する。

> **チェック** システムによっては、Language selectionメニューが表示される場合があります。Language selectionメニューが表示された場合は「Japanese」を選択します。

6. TOOL MENUの「Test and diagnostics」を選択する。

   Test and diagnosticsの「End-User Mode」を選択してシステム診断を開始します。約3分で診断は終了します。
   診断を終了するとディスプレイ装置の画面が次のような表示に変わります。



試験タイトル

診断ツールの名称およびバージョン情報を表示します。

試験ウィンドウタイトル

診断状態を表示します。試験終了時にはTest Endと表示します。

試験結果

診断開始・終了・経過時間および終了時の状態を表示します。

ガイドライン

ウィンドウを操作するキーの説明を表示します。

試験簡易ウィンドウ

診断を実行した各試験の結果を表示します。カーソル行で<Enter>キーを押すと試験の詳細を表示します。

システム診断でエラーを検出した場合は試験簡易ウィンドウの該当する試験結果が赤く反転表示し、右側の結果に「Abnormal End」を表示します。
エラーを検出した試験にカーソルを移動し<Enter>キーを押し、試験詳細表示に出力されたエラーメッセージを記録してお買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

7. 画面最下段の「ガイドライン」に従い<Esc>キーを押す。

   以下のエンドユーザーメニューを表示します。

```
TeDoLi (TEst & Diagnosis On Linux) Ver001.00 (Build020901.1.1m)

                 Enduser Menu
                 <Test Result>
                 <Device List>
                 <Log Info>
                 <Option>
                 <Reboot>

 Please choose a function by the arrow key and push Enter key.
```

   <Test Result>
   前述の診断終了時の画面を表示します。

   <Device List>
   接続されているデバイス一覧情報を表示します。

   <Log Info>
   試験ログを表示します。試験ログを保存することができます。試験ログを保存する場合は、FATフォーマット済みのリムーバブルメディアをセットし、<Save(F)>を選択してください。

   <Option>
   オプション機能が利用できます。

   <Reboot>
   システムを再起動します。

8. 上記エンドユーザーメニューで<Reboot>を選択する。

   再起動し、システムがEXPRESSBUILDERから起動します。

9. EXPRESSBUILDERを終了し、光ディスクドライブからDVDを取り出す。
10. 本体の電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。
11. 手順2.で取り外したLANケーブルを接続し直す。
12. 電源コードをコンセントに接続する。

以上でシステム診断は終了です。

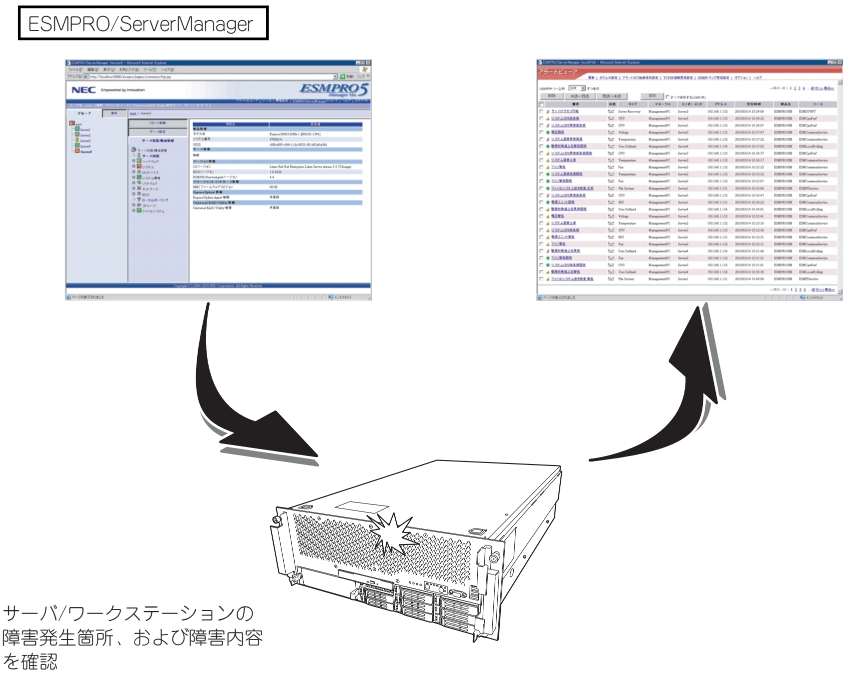
障害時の対処

「故障かな？」と思ったときは、ここで説明する内容について確認してください。該当することがらがある場合は、説明に従って正しく対処してください。

障害箇所の切り分け

万一、障害が発生した場合は、ESMPRO/ServerManagerを使って障害の発生箇所を確認し、障害がハードウェアによるものかソフトウェアによるものかを判断します。
障害発生個所や内容の確認ができたら、故障した部品の交換やシステム復旧などの処置を行います。

障害がハードウェア要因によるものかソフトウェア要因によるものかを判断するには、ESMPRO/ServerManagerが便利です。



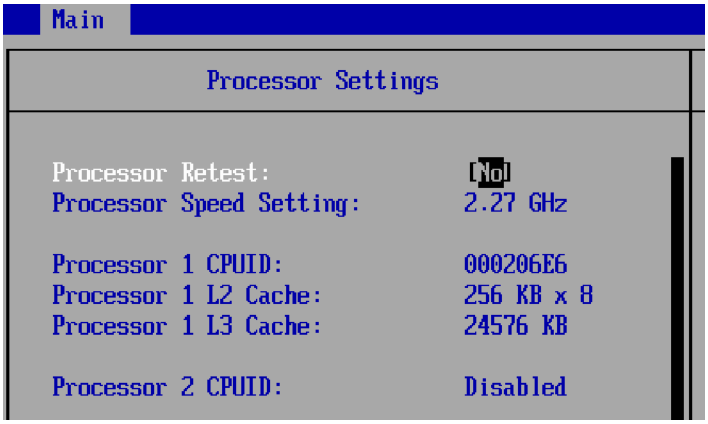
プロセッサ縮退機能について

万一、プロセッサ故障による障害が起き、その後の稼働を妨げる可能性があると診断された場合、EXPRESSSCOPEエンジン2(BMC)とPOST(システムBIOS)との連携により、故障したプロセッサを完全に切り離すために、プロセッサソケット単位でプロセッサの縮退を実施します。

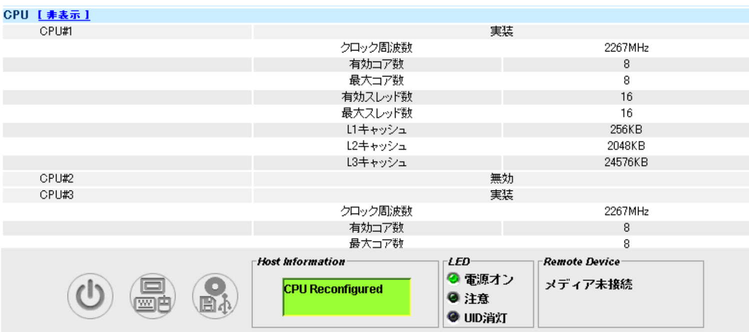
縮退したプロセッサ番号の確認方法

次のような方法により、縮退したプロセッサ番号を確認することができます。

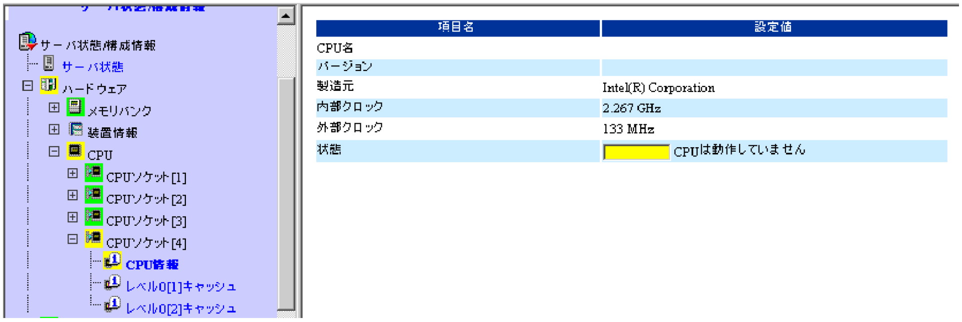
- BIOSセットアップの「Main」-「Processor Settings」のProcessor CPU ID項目に、「Disabled」と表示されます。



- EXPRESSSCOPEエンジン2 Webブラウザの「情報」-「システム情報」のCPU#項目に、「無効」と表示されます。



- ESMPRO/ServerManager Ver.5の「サーバ状態/構成情報」の項目に、「CPUは動作していません」と表示されます。



- POSTエラーメッセージに、「0B5x: Processor #y with error taken off line.」と表示されます。詳細な内容は、181ページをご覧ください。また、IPMI System Event LogにもPOSTエラーコードが登録されますので、POSTエラーコードにより、縮退したプロセッサ番号を確認することもできます。

注意事項

- ハードウェア構成によっては、故障プロセッサを縮退できない場合があります。
- プロセッサソケット単位でプロセッサ縮退を実施することから、縮退されたプロセッサと接続されるシステムメモリ(メモリボードとメモリボードに搭載されたシステムメモリDIMM)は使用できません。システムメモリDIMMは未実装の状態と同じになります。

プロセッサ番号とメモリボード番号の接続関係

プロセッサ番号	接続されるメモリボード番号
1	1
	2
2	3
	4
3	5
	6
4	7
	8

- 以下の場合、プロセッサの状態が変わることから、システムのPower Cycle (Power Off → Power On)が自動的に実施されます。
  - プロセッサを縮退する場合
  - プロセッサが縮退されている状態で、BIOSセットアップのProcessor Retest項目をYesに変更し、Exit Save Changesした場合

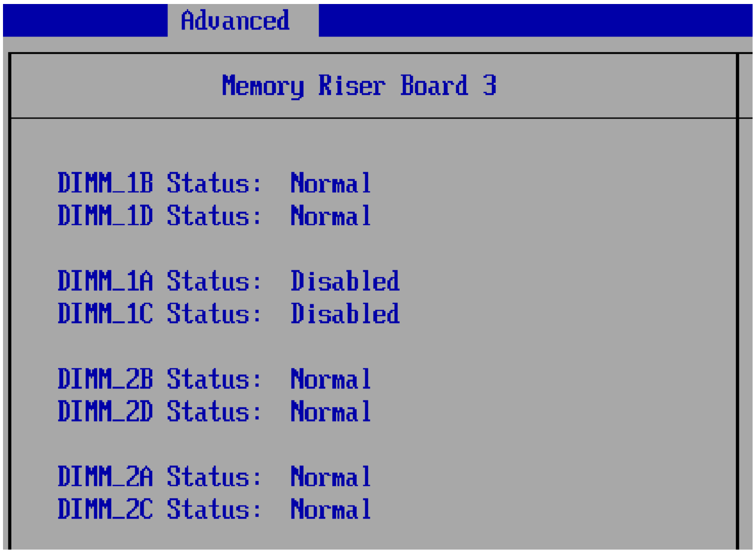
メモリ縮退機能について

万一、システムメモリDIMM 故障による障害が起き、その後の稼働を妨げる可能性があると診断された場合、EXPRESSSCOPE エンジン2(BMC)とPOST(システムBIOS)との連携により、故障したシステムメモリDIMM を完全に切り離すために、システムメモリDIMM の縮退を実施します。

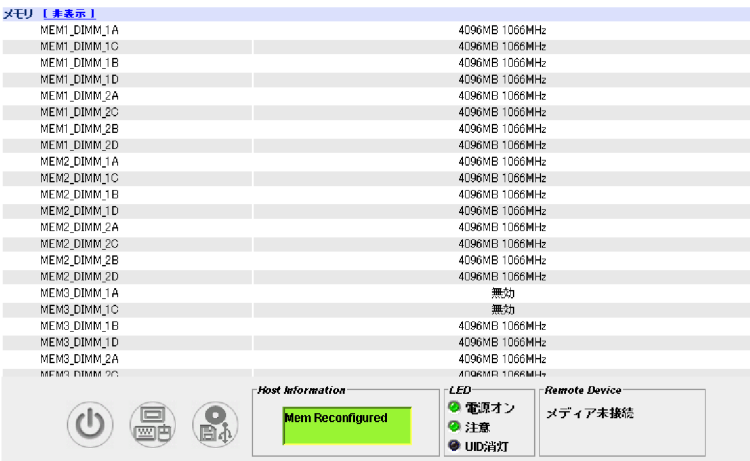
縮退したシステムメモリDIMM 番号の確認方法

次のような方法により、縮退したシステムメモリDIMM 番号(メモリボード番号も含めて)を確認することができます。

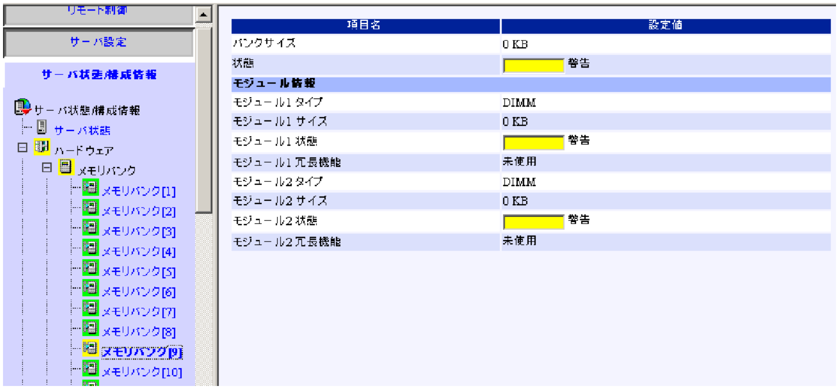
- BIOS セットアップの「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Riser Board x」のDIMM_yy Status項目に、「Disabled」と表示されます。



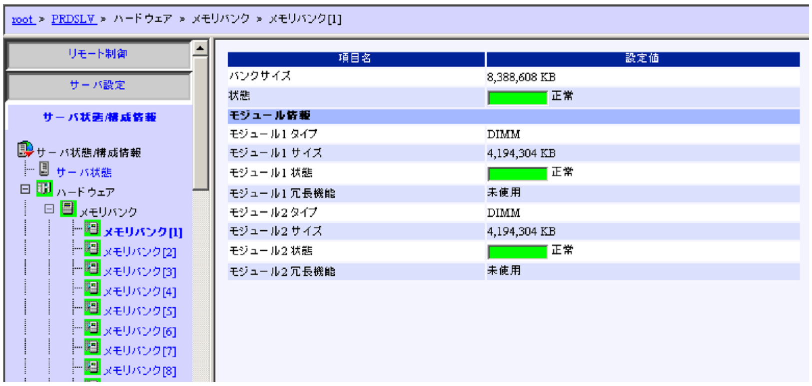
- EXPRESSSCOPE エンジン2 Web ブラウザの「情報」-「システム情報」のDIMM#項目に、「無効」と表示されます。



- ESMPRO/ServerManager Ver.5 の「サーバ状態/構成情報」-「ハードウェア」のメモリバンク項目は、次のようになります。



- POST エラーメッセージに、「87xx: Memory Riser x ― DIMM yy and zz have been disabled.」と表示されます。詳細な内容は、181ページをご覧ください。また、IPMI System Event Log にもPOST エラーコードが登録されますので、POST エラーコードにより、縮退したシステムメモリDIMM 番号を確認することもできます。
- ESMPRO/ServerManager Ver.5 にて表示される「サーバ状態/構成情報」-「ハードウェア」-「メモリバンク」のツリーとメモリボード/DIMM 番号の関係は、次のようになります。



メモリバンク	メモリボード番号と DIMM 番号
メモリバンク[1]	メモリボード 1 に取り付けられたDIMM 1A と DIMM 1C の DIMM ペア
メモリバンク[2]	メモリボード 1 に取り付けられたDIMM 1B と DIMM 1D の DIMM ペア
メモリバンク[3]	メモリボード 1 に取り付けられたDIMM 2A と DIMM 2C の DIMM ペア
メモリバンク[4]	メモリボード 1 に取り付けられたDIMM 2B と DIMM 2D の DIMM ペア
メモリバンク[5]	メモリボード 2 に取り付けられたDIMM 1A と DIMM 1C の DIMM ペア
メモリバンク[6]	メモリボード 2 に取り付けられたDIMM 1B と DIMM 1D の DIMM ペア
メモリバンク[7]	メモリボード 2 に取り付けられたDIMM 2A と DIMM 2C の DIMM ペア
メモリバンク[8]	メモリボード 2 に取り付けられたDIMM 2B と DIMM 2D の DIMM ペア
メモリバンク[9]	メモリボード 3 に取り付けられたDIMM 1A と DIMM 1C の DIMM ペア
メモリバンク[10]	メモリボード 3 に取り付けられたDIMM 1B と DIMM 1D の DIMM ペア
メモリバンク[11]	メモリボード 3 に取り付けられたDIMM 2A と DIMM 2C の DIMM ペア
メモリバンク[12]	メモリボード 3 に取り付けられたDIMM 2B と DIMM 2D の DIMM ペア
メモリバンク[13]	メモリボード 4 に取り付けられたDIMM 1A と DIMM 1C の DIMM ペア
メモリバンク[14]	メモリボード 4 に取り付けられたDIMM 1B と DIMM 1D の DIMM ペア
メモリバンク[15]	メモリボード 4 に取り付けられたDIMM 2A と DIMM 2C の DIMM ペア

メモリバンク	メモリボード番号と DIMM 番号
メモリバンク[16]	メモリボード 4 に取り付けられた DIMM 2B とDIMM 2D の DIMM ペア
メモリバンク[17]	メモリボード 5 に取り付けられた DIMM 1A とDIMM 1C の DIMM ペア
メモリバンク[18]	メモリボード 5 に取り付けられた DIMM 1B とDIMM 1D の DIMM ペア
メモリバンク[19]	メモリボード 5 に取り付けられた DIMM 2A とDIMM 2C の DIMM ペア
メモリバンク[20]	メモリボード 5 に取り付けられた DIMM 2B とDIMM 2D の DIMM ペア
メモリバンク[21]	メモリボード 6 に取り付けられた DIMM 1A とDIMM 1C の DIMM ペア
メモリバンク[22]	メモリボード 6 に取り付けられた DIMM 1B とDIMM 1D の DIMM ペア
メモリバンク[23]	メモリボード 6 に取り付けられた DIMM 2A とDIMM 2C の DIMM ペア
メモリバンク[24]	メモリボード 6 に取り付けられた DIMM 2B とDIMM 2D の DIMM ペア
メモリバンク[25]	メモリボード 7 に取り付けられた DIMM 1A とDIMM 1C の DIMM ペア
メモリバンク[26]	メモリボード 7 に取り付けられた DIMM 1B とDIMM 1D の DIMM ペア
メモリバンク[27]	メモリボード 7 に取り付けられた DIMM 2A とDIMM 2C の DIMM ペア
メモリバンク[28]	メモリボード 7 に取り付けられた DIMM 2B とDIMM 2D の DIMM ペア
メモリバンク[29]	メモリボード 8 に取り付けられた DIMM 1A とDIMM 1C の DIMM ペア
メモリバンク[30]	メモリボード 8 に取り付けられた DIMM 1B とDIMM 1D の DIMM ペア
メモリバンク[31]	メモリボード 8 に取り付けられた DIMM 2A とDIMM 2C の DIMM ペア
メモリバンク[32]	メモリボード 8 に取り付けられた DIMM 2B とDIMM 2D の DIMM ペア

メモリスペアリング機能について

本装置のメモリスペアリング(オンラインスペアメモリ)機能は、DIMM Rank スペアリング機能をサポートします。

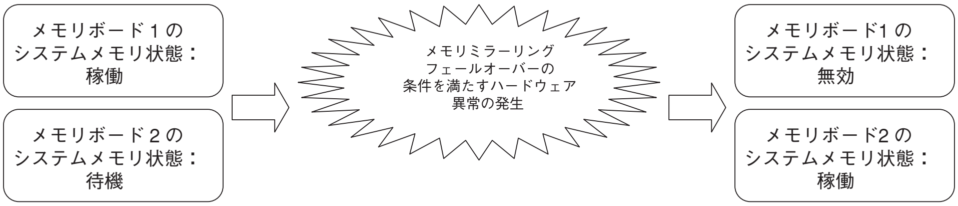
メモリミラーリング機能について

メモリミラーリング機能におけるメモリボード番号やシステムメモリ状態は、次のような関係になります。

メモリボード番号	パートナーとなる メモリボード番号	メモリミラーリング フェールオーバーになる前の システムメモリ状態
1	2	稼働
2	1	待機
3	4	稼働
4	3	待機
5	6	稼働
6	5	待機
7	8	稼働
8	7	待機

メモリミラーリングフェールオーバーの状態変移は、次のようなイメージになります。
メモリボード1 とメモリボード2 のメモリミラーリング構成を例としています。

[メモリボード1 のシステムメモリにハードウェア異常が発生した場合]



メモリホットプラグ機能について

「BIOS セットアップの項目」と「メモリホットプラグ機能の操作」は、次のような関係になります。

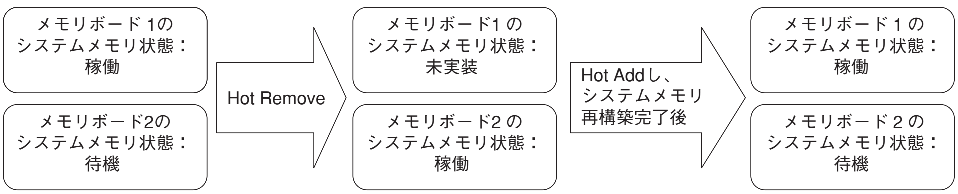
<table>
<tr><th colspan="2">BIOS セットアップの項目</th><th colspan="2">操作</th></tr>
<tr><th>Memory RAS Feature</th><th>Hot-Add Memory Support</th><th>Hot Replace</th><th>Hot Add</th></tr>
<tr><td rowspan="2">Normal</td><td>Disabled</td><td rowspan="4">不可</td><td>不可</td></tr>
<tr><td>Enabled</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Spare</td><td>Disabled</td><td>不可</td></tr>
<tr><td>Enabled</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Mirror</td><td>Disabled</td><td rowspan="2">可</td><td>不可</td></tr>
<tr><td>Enabled</td><td>可</td></tr>
</table>

「メモリホットプラグ機能の操作」と「OS との依存性」は、次のような関係になります。

操作	OS との依存性
Hot Replace	OS の種類には依存しません。
Hot Add	Hot-Add Memory 機能をサポートしている OS の種類のみ実施できます。

Hot Replace の操作における状態変移は、次のようなイメージになります。
メモリボード1 とメモリボード2 のメモリミラーリング構成を例としています。

[メモリボード1 のHot Replace 操作を実施した場合]



メモリホットプラグ機能の操作が完了するまでにかかる時間

メモリホットプラグ機能の操作が完了するまでにかかる時間の算出式は、次のようになります。メモリホットプラグの操作を実施するときに参考にしてください。

Hot Replaceの操作が完了するまでにかかる時間の算出式

40～60分＋ 実装メモリ容量(単位=GB) x 10分

Hot Addの操作が完了するまでにかかる時間

40～60分

[Hot Replace の例]
メモリボード1 上に取り付けられたDIMM 構成：2GB-DIMM x 8 枚(実装メモリ容量=16GB)
メモリボード2 上に取り付けられたDIMM 構成：2GB-DIMM x 8 枚(実装メモリ容量=16GB)
のメモリミラーリング構成にて、メモリボード1 のHot Replace 操作を実施する場合、算出式により、

40 + 16 x 10 = 200 分

50 + 16 x 10 = 210 分

60 + 16 x 10 = 220 分

となり、「Hot Replace の操作が完了するまでの時間は200～220 分である」と見積もることができます。

注意事項

- POST 動作完了後、EXPRESSSCOPE エンジン2 Web ブラウザの「情報」-「システム情報」のメモリ項目に表示される情報は動的に変化しません。
- ホットプラグ処理中の注意事項は、次のようになります。

EXPRESSSCOPE エンジン2 Web ブラウザ：

「情報」-「IPMI 情報」のFRU 情報に、システムメモリDIMM のFRU 情報(Mx DIMM yy SPD)が表示されません。ホットプラグ処理が完了した後、再度確認してください。

「情報」-「IPMI 情報」の「IPMI 情報のバックアップ」を実施する場合、IPMI 情報ファイルには、システムメモリDIMM のFRU 情報(Mx DIMM yy SPD)が格納されません。
ホットプラグ処理が完了した後、再度実施してください。

「情報」-「システム環境」のシステムメモリ温度(Mx DIMM yy Temp)が表示されません。
ホットプラグ処理が完了した後、再度確認してください。

ESMPRO/ServerManager Ver.5：

「サーバ状態/構成情報」-「システム環境」のセンサ情報は、ホットプラグ処理が完了した後、再度確認してください。

「リモート制御」-「IPMI 情報」-「センサ情報」のシステムメモリ温度(Mx DIMM yy Temp)やメモリボード電圧(MEMx PWGD FAIL)を取得すると、「センサ状態の取得に失敗しました。」と表示されます。ホットプラグ処理が完了した後、再度確認してください。

「リモート制御」-「情報」-「IPMI 情報」-「保守交換情報」のシステムメモリDIMM のFRU情報(Mx DIMM yy SPD)の詳細が表示されません。ホットプラグ処理が完了した後、再度確認してください。

「リモート制御」-「IPMI 情報」の「保存」を実施する場合、IPMI 情報ファイルにはシステムメモリDIMM のFRU 情報(Mx DIMM yy SPD)が格納されません。ホットプラグ処理が完了した後、再度実施してください。

ESRAS ユーティリティ：

「最新情報」-「保守交換部品情報(FRU)」-「一覧」のシステムメモリDIMM のFRU情報(Mx DIMM yy SPD)の詳細が表示されません。ホットプラグ処理が完了した後、再度確認してください。

「現在のIPMI 情報をバックアップ」を実施する場合、IPMI 情報ファイルには、システムメモリDIMM のFRU 情報(Mx DIMM yy SPD)が格納されません。ホットプラグ処理が完了した後、再度実施してください。

- メモリをHot-Add した場合のESMPRO/ServerManager Ver.5 への反映について

  Hot-Add 機能を使用して動的にメモリボードを追加した場合、ESMPRO/ServerManager Ver.5 の「サーバ状態/構成情報」ー「ハードウエア」ー「メモリバンク」ーメモリバンク[X]の[バンクサイズ]と[モジュールサイズ]には、構成変更後のメモリサイズは反映されませんが、ご使用上は問題ありません。

  (※ X は動的に抜き差ししたメモリバンクの番号となります。)

  システム再起動後、メモリサイズは正しく反映されます。

エラーメッセージ

本体になんらかの異常が起きるとさまざまな形でエラーを通知します。ここでは、エラーメッセージの種類について説明します。

POST中のエラーメッセージ

本体の電源をONにすると自動的に実行される自己診断機能「POST」中に何らかの異常を検出すると、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示します。また、エラーの内容によってはビープ音でエラーが起きたことを通知します。画面に表示されるメッセージとその意味、対処方法については「ハードウェア編」の181ページをご覧ください。

```
Phoenix BIOS 4.0 Release 6.0.XXXX
:
CPU=Pentium 4 Processor XXX MHz
0640K System RAM Passed
0127M Extended RAM Passed
WARNING
0B60: DIMM #1 has been disabled.
:

Press <F1> to resume, <F2> to setup
```

メモリの故障を示すメッセージ（例ではメモリ#1が故障した場合の表示）

次にエラーメッセージの一覧と原因、その対処方法を示します。

重要

保守サービス会社に連絡するときはディスプレイの表示やビープ音のパターンをメモしておいてください。アラーム表示は保守を行うときに有用な情報となります。

ヒント

「ハードウェア編」に記載されているPOSTのエラーメッセージ一覧は本装置単体のものです。マザーボードに接続されているオプションのSCSIコントローラ、RAIDコントローラに搭載されているBIOSのエラーメッセージとその対処方法についてはオプションに添付のマニュアルを参照してください（本装置のマザーボードにSCSIコントローラが搭載されている場合はこれらのメッセージも含まれています）。RAIDコントローラについては、この後の「トラブルシューティング」の「RAIDシステム、RAIDコントローラについて」を参照するか、RAIDコントローラに添付の説明書を参照してください。

ランプによるエラーメッセージ

本装置の前面や背面、ハードディスクドライブのハンドル部分にあるランプはさまざまな状態を点灯、点滅、消灯によるパターンや色による表示でユーザーに通知します。「故障かな？」と思ったらランプの表示を確認してください。ランプ表示とその意味については「ハードウェア編」の151ページをご覧ください。

仮想LCD上のエラーメッセージ

EXPRESSSCOPEエンジン2 (BMC) WebブラウザやESMPRO/ServerManager Ver.5の画面にて、仮想LCDの表示を確認できます。上段と下段それぞれのメッセージの一覧と障害内容、その対処方法を示します。
エラーメッセージ一覧のプロセッサやメモリ、ファンなどのデバイスに関するエラーメッセージとデバイスの搭載位置は222ページ～223ページの図のように対応しています。
また、POST中にエラーを検出した場合は、POSTが終了した後、仮想LCD上にPOSTエラーコードを表示します。

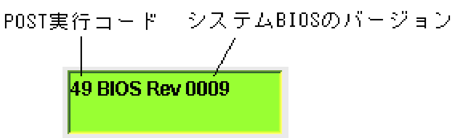
重要

- 本装置のハードウェアの取り付け状態の確認、取り付け直しや交換の作業は無理をせず、作業を熟知している保守サービス会社に依頼してください。
- 保守サービス会社に連絡するときには、仮想LCDの表示をメモしておいてください。保守を行うときに重要な情報となります。
- 保守を行うときにIPMI情報も有用な情報となります。IPMI情報の採取方法は542ページを参照してください。
- 対処方法は、OSからの制御による「再立ち上げ(リセット)」や「電源OFF」を優先して実施してください。





- POST動作中



- POSTエラーコード



- **POST実行コード**

主なPOST実行コード	意　味
FCh	プロセッサ、メモリやバスの初期化
28h	メモリのテストと初期化
2Ah	メモリのゼロクリア
2Ch	メモリのアドレスラインテスト
2Eh	メモリのデータラインテスト
0Ah	プロセッサの初期化
2Fh	プロセッサキャッシュの設定
38h	システム BIOS の Shadowing
67h	アプリケーションプロセッサの初期化
69h	SMI の初期化レベル 1
49h	PCI デバイスの初期化（リソース割り当て）
55h	USB の初期化
4Ah	ビデオコントローラの初期化
4Ch	ビデオ BIOS の Shadowing
59h	POST 画面表示機能の初期化
C6h	コンソールダイレクション機能の初期化
4Eh	コピーライトの表示
50h	プロセッサ情報の表示
60h	拡張メモリのテスト
62h	拡張メモリのアドレステスト
68h	キャッシュのコンフィグレーション
6Ah	キャッシュサイズの表示
87h	I/O デバイスのコンフィグレーション
98h	PCI デバイスのオプション ROM 展開
93h	マルチプロセッサのコンフィグレーション
9Ch	SMI の初期化レベル 2
BAh	SMBIOS の初期化
C3h	POST エラーの表示
ACh	BIOS セットアップの起動
B0h	POST エラーのチェック
BDh	Boot メニューの表示
97h	MP テーブルの作成
C0h	ブート開始処理

メモリボード番号とプロセッサ番号

メモリボードとプロセッサは、次のような接続関係となります。

メモリボード番号	接続されるプロセッサ番号
1	1
2	
3	2
4	
5	3
6	
7	4
8	

対処方法：
対処方法の「本装置を再立ち上げ」は、状況によって次のいずれかを実施してください。

* OSからの制御により、本装置をリセットする。
* OSからの制御により、本装置の電源をOFFし、その後、POWERスイッチを押し、本装置の電源をONする。
* POWERスイッチを押し、本装置の電源をOFFし、その後、POWERスイッチを押し、本装置の電源をONする。
* POWERスイッチを4秒以上押し、本装置の電源をOFFし、その後、POWERスイッチを押し、本装置の電源をONする。
* 「CTRL+ALT+DEL」キー入力により、本装置をリセットする。(POST動作中)
* リセットスイッチを押し、本装置をリセットする。
* 管理PCから本装置を再起動する。(パワーサイクルやシステムリセットなど)
* 本装置の電源をOFFした後、電源コードを抜き、その後、電源コードを再接続し本装置の電源をONする。

LCD上段表示メッセージ

● STATUSランプが緑色に点灯しているとき

メッセージ	意　味
Prepare To Boot	POST が正常に終了しました。

対処方法：

エラーではありません。

● STATUSランプが緑色に点滅しているとき

メッセージ	意　味
CPU Reconfigured	プロセッサが縮退した状態で起動した。

対処方法：

* BIOS セットアップを起動し、「Main」-「Processor Settings」-「Processor Retest」をYes に変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意　味
Mem Reconfigured	システムメモリが縮退した状態で起動した。

対処方法：

* BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施することにより、解決することもできます。

* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意　味
MR 1 DIMM 1A CE	メモリボード 1 に搭載した DIMM_1A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 1 DIMM 1B CE	メモリボード 1 に搭載した DIMM_1B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 1 DIMM 1C CE	メモリボード 1 に搭載した DIMM_1C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 1 DIMM 1D CE	メモリボード 1 に搭載した DIMM_1D にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 1 DIMM 2A CE	メモリボード 1 に搭載した DIMM_2A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 1 DIMM 2B CE	メモリボード 1 に搭載した DIMM_2B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 1 DIMM 2C CE	メモリボード 1 に搭載した DIMM_2C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 1 DIMM 2D CE	メモリボード 1 に搭載した DIMM_2D にて訂正可能なエラーが多発した。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：

* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード1を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード1を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ1を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ1を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
MR 2 DIMM 1A CE	メモリボード 2 に搭載した DIMM_1A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 2 DIMM 1B CE	メモリボード 2 に搭載した DIMM_1B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 2 DIMM 1C CE	メモリボード 2 に搭載した DIMM_1C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 2 DIMM 1D CE	メモリボード 2 に搭載した DIMM_1D にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 2 DIMM 2A CE	メモリボード 2 に搭載した DIMM_2A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 2 DIMM 2B CE	メモリボード 2 に搭載した DIMM_2B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 2 DIMM 2C CE	メモリボード 2 に搭載した DIMM_2C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 2 DIMM 2D CE	メモリボード 2 に搭載した DIMM_2D にて訂正可能なエラーが多発した。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード2を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード2を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ1を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ1を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
MR 3 DIMM 1A CE	メモリボード 3 に搭載した DIMM_1A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 3 DIMM 1B CE	メモリボード 3 に搭載した DIMM_1B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 3 DIMM 1C CE	メモリボード 3 に搭載した DIMM_1C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 3 DIMM 1D CE	メモリボード 3 に搭載した DIMM_1D にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 3 DIMM 2A CE	メモリボード 3 に搭載した DIMM_2A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 3 DIMM 2B CE	メモリボード 3 に搭載した DIMM_2B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 3 DIMM 2C CE	メモリボード 3 に搭載した DIMM_2C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 3 DIMM 2D CE	メモリボード 3 に搭載した DIMM_2D にて訂正可能なエラーが多発した。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード3を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード3を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ2を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ2を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
MR 4 DIMM 1A CE	メモリボード 4 に搭載した DIMM_1A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 4 DIMM 1B CE	メモリボード 4 に搭載した DIMM_1B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 4 DIMM 1C CE	メモリボード 4 に搭載した DIMM_1C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 4 DIMM 1D CE	メモリボード 4 に搭載した DIMM_1D にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 4 DIMM 2A CE	メモリボード 4 に搭載した DIMM_2A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 4 DIMM 2B CE	メモリボード 4 に搭載した DIMM_2B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 4 DIMM 2C CE	メモリボード 4 に搭載した DIMM_2C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 4 DIMM 2D CE	メモリボード 4 に搭載した DIMM_2D にて訂正可能なエラーが多発した。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：

* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード4を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード4を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ2を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ2を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
MR 5 DIMM 1A CE	メモリボード 5 に搭載した DIMM_1A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 5 DIMM 1B CE	メモリボード 5 に搭載した DIMM_1B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 5 DIMM 1C CE	メモリボード 5 に搭載した DIMM_1C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 5 DIMM 1D CE	メモリボード 5 に搭載した DIMM_1D にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 5 DIMM 2A CE	メモリボード 5 に搭載した DIMM_2A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 5 DIMM 2B CE	メモリボード 5 に搭載した DIMM_2B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 5 DIMM 2C CE	メモリボード 5 に搭載した DIMM_2C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 5 DIMM 2D CE	メモリボード 5 に搭載した DIMM_2D にて訂正可能なエラーが多発した。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：

* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード5を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード5を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ3を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ3を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
MR 6 DIMM 1A CE	メモリボード 6 に搭載した DIMM_1A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 6 DIMM 1B CE	メモリボード 6 に搭載した DIMM_1B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 6 DIMM 1C CE	メモリボード 6 に搭載した DIMM_1C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 6 DIMM 1D CE	メモリボード 6 に搭載した DIMM_1D にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 6 DIMM 2A CE	メモリボード 6 に搭載した DIMM_2A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 6 DIMM 2B CE	メモリボード 6 に搭載した DIMM_2B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 6 DIMM 2C CE	メモリボード 6 に搭載した DIMM_2C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 6 DIMM 2D CE	メモリボード 6 に搭載した DIMM_2D にて訂正可能なエラーが多発した。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード6を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード6を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ3を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ3を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
MR 7 DIMM 1A CE	メモリボード 7 に搭載した DIMM_1A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 7 DIMM 1B CE	メモリボード 7 に搭載した DIMM_1B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 7 DIMM 1C CE	メモリボード 7 に搭載した DIMM_1C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 7 DIMM 1D CE	メモリボード 7 に搭載した DIMM_1D にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 7 DIMM 2A CE	メモリボード 7 に搭載した DIMM_2A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 7 DIMM 2B CE	メモリボード 7 に搭載した DIMM_2B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 7 DIMM 2C CE	メモリボード 7 に搭載した DIMM_2C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 7 DIMM 2D CE	メモリボード 7 に搭載した DIMM_2D にて訂正可能なエラーが多発した。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード7を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード7を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ4を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ4を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
MR 8 DIMM 1A CE	メモリボード 8 に搭載した DIMM_1A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 8 DIMM 1B CE	メモリボード 8 に搭載した DIMM_1B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 8 DIMM 1C CE	メモリボード 8 に搭載した DIMM_1C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 8 DIMM 1D CE	メモリボード 8 に搭載した DIMM_1D にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 8 DIMM 2A CE	メモリボード 8 に搭載した DIMM_2A にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 8 DIMM 2B CE	メモリボード 8 に搭載した DIMM_2B にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 8 DIMM 2C CE	メモリボード 8 に搭載した DIMM_2C にて訂正可能なエラーが多発した。
MR 8 DIMM 2D CE	メモリボード 8 に搭載した DIMM_2D にて訂正可能なエラーが多発した。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード8を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード8を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ4を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ4を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
Mem Riser 1 CE	メモリボード 1 にてバス訂正可能なエラーが多発した。
Mem Riser 2 CE	メモリボード 2 にてバス訂正可能なエラーが多発した。
Mem Riser 3 CE	メモリボード 3 にてバス訂正可能なエラーが多発した。
Mem Riser 4 CE	メモリボード 4 にてバス訂正可能なエラーが多発した。
Mem Riser 5 CE	メモリボード 5 にてバス訂正可能なエラーが多発した。
Mem Riser 6 CE	メモリボード 6 にてバス訂正可能なエラーが多発した。
Mem Riser 7 CE	メモリボード 7 にてバス訂正可能なエラーが多発した。
Mem Riser 8 CE	メモリボード 8 にてバス訂正可能なエラーが多発した。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードに搭載されたDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードに搭載されたDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードと接続されたプロセッサを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードと接続されたプロセッサを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意　味
MR 1D 1A/1C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 1 に搭載した DIMM_1A と DIMM_1C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 1D 1B/1D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 1 に搭載した DIMM_1B と DIMM_1D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 1D 2A/2C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 1 に搭載した DIMM_2A と DIMM_2C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 1D 2B/2D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 1 に搭載した DIMM_2B と DIMM_2D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：

* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード1を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード1を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ1を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ1を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
MR 2D 1A/1C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 2 に搭載した DIMM_1A と DIMM_1C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 2D 1B/1D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 2 に搭載した DIMM_1B と DIMM_1D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 2D 2A/2C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 2 に搭載した DIMM_2A と DIMM_2C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 2D 2B/2D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 2 に搭載した DIMM_2B と DIMM_2D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：

* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード2を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード2を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ1を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ1を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
MR 3 D 1A/1C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 3 に搭載した DIMM_1A と DIMM_1C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 3 D 1B/1D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 3 に搭載した DIMM_1B と DIMM_1D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 3 D 2A/2C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 3 に搭載した DIMM_2A と DIMM_2C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 3 D 2B/2D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 3 に搭載した DIMM_2B と DIMM_2D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：

* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード3を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード3を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ2を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ2を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：

メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
MR 4 D 1A/1C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 4 に搭載した DIMM_1A と DIMM_1C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 4 D 1B/1D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 4 に搭載した DIMM_1B と DIMM_1D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 4 D 2A/2C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 4 に搭載した DIMM_2A と DIMM_2C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 4 D 2B/2D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 4 に搭載した DIMM_2B と DIMM_2D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：

* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード4を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード4を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ2を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ2を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：

メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
MR 5D 1A/1C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 5 に搭載した DIMM_1A と DIMM_1C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 5D 1B/1D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 5 に搭載した DIMM_1B と DIMM_1D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 5D 2A/2C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 5 に搭載した DIMM_2A と DIMM_2C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 5D 2B/2D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 5 に搭載した DIMM_2B と DIMM_2D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード5を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード5を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ3を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ3を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
MR 6D 1A/1C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 6 に搭載した DIMM_1A と DIMM_1C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 6D 1B/1D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 6 に搭載した DIMM_1B と DIMM_1D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 6D 2A/2C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 6 に搭載した DIMM_2A と DIMM_2C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 6D 2B/2D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 6 に搭載した DIMM_2B と DIMM_2D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード6を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード6を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ3を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ3を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
MR 7 D 1A/1C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 7 に搭載した DIMM_1A と DIMM_1C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 7 D 1B/1D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 7 に搭載した DIMM_1B と DIMM_1D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 7 D 2A/2C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 7 に搭載した DIMM_2A と DIMM_2C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 7 D 2B/2D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 7 に搭載した DIMM_2B と DIMM_2D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード7を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード7を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ4を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ4を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
MR 8 D 1A/1C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 8 に搭載した DIMM_1A と DIMM_1C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 8 D 1B/1D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 8 に搭載した DIMM_1B と DIMM_1D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 8 D 2A/2C UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 8 に搭載した DIMM_2A と DIMM_2C にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 8 D 2B/2D UCE	メモリミラー構成時、メモリボード 8 に搭載した DIMM_2B と DIMM_2D にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード8を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボード8を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ4を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ4を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
メモリボードのDIMM Fault LEDがアンバー色に点灯し、DIMMエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もメモリボードのDIMM Fault LEDはアンバー色に点灯します。メモリボードのDIMM Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
MR 1 FailOver 1	メモリミラー構成時、メモリボード１にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 2 FailOver 1	メモリミラー構成時、メモリボード２にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 3 FailOver 1	メモリミラー構成時、メモリボード３にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 4 FailOver 1	メモリミラー構成時、メモリボード４にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 5 FailOver 1	メモリミラー構成時、メモリボード５にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 6 FailOver 1	メモリミラー構成時、メモリボード６にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 7 FailOver 1	メモリミラー構成時、メモリボード７にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 8 FailOver 1	メモリミラー構成時、メモリボード８にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 1 FailOver 2	メモリミラー構成時、メモリボード１にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 2 FailOver 2	メモリミラー構成時、メモリボード２にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 3 FailOver 2	メモリミラー構成時、メモリボード３にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 4 FailOver 2	メモリミラー構成時、メモリボード４にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 5 FailOver 2	メモリミラー構成時、メモリボード５にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 6 FailOver 2	メモリミラー構成時、メモリボード６にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 7 FailOver 2	メモリミラー構成時、メモリボード７にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 8 FailOver 2	メモリミラー構成時、メモリボード８にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：

* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードに搭載されたDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードに搭載されたDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードと接続されたプロセッサを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードと接続されたプロセッサを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

備考：
本装置の再立ち上げ後、次の情報によりエラーが発生した部品が判る場合があります。

- メモリボードのDIMM Fault LEDの状態
- POSTエラーメッセージ(POSTエラーコード)
- IPMI情報ファイル(IPMI.DATファイル)

メッセージ	意　味
MR 1/2 FailOver	メモリミラー構成時、メモリボード 1/2 にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 3/4 FailOver	メモリミラー構成時、メモリボード 3/4 にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 5/6 FailOver	メモリミラー構成時、メモリボード 5/6 にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。
MR 7/8 FailOver	メモリミラー構成時、メモリボード 7/8 にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードに搭載されたDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードに搭載されたDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードと接続されたプロセッサを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードと接続されたプロセッサを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

備考：
本装置の再立ち上げ後、次の情報によりエラーが発生した部品が判る場合があります。
- メモリボードのDIMM Fault LEDの状態
- POSTエラーメッセージ(POSTエラーコード)
- IPMI情報ファイル(IPMI.DATファイル)

メッセージ	意　味
Mirror FailOver1	メモリミラー構成時、メモリミラーフェールオーバーとなった。
Mirror FailOver2	メモリミラー構成時、メモリミラーフェールオーバーとなった。
Mirror FailOver3	メモリミラー構成時、メモリミラーフェールオーバーとなった。
Mirror FailOver4	メモリミラー構成時、メモリミラーフェールオーバーとなった。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードに搭載されたDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードに搭載されたDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードと接続されたプロセッサを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードと接続されたプロセッサを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

備考：
本装置の再立ち上げ後、次の情報によりエラーが発生した部品が判る場合があります。
- メモリボードのDIMM Fault LEDの状態
- POSTエラーメッセージ(POSTエラーコード)
- IPMI情報ファイル(IPMI.DATファイル)

メッセージ	意　味
Sys Mem UCE PSN	システムメモリにて訂正不可能なエラーが発生した。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

備考：
本装置の再立ち上げ後、次の情報によりエラーが発生した部品が判る場合があります。
- メモリボードのDIMM Fault LEDの状態
- POSTエラーメッセージ(POSTエラーコード)
- IPMI情報ファイル(IPMI.DATファイル)

メッセージ	意　味
IR NIC 1 CE	I/O ライザボードに搭載されたオンボード LAN1 あるいは2 コントローラにて PCI Express バス訂正可能なエラーが多発した。
IR NIC 2 CE	I/O ライザボードに搭載されたオンボード LAN3 あるいは4 コントローラにて PCI Express バス訂正可能なエラーが多発した。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意　味
SR SAS CE	SAS スロットに取り付けたRAID コントローラにて PCI Expressバス訂正可能なエラーが多発した。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、SASスロットに取り付けたPCIボードを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、SASスロットに取り付けたPCIボードを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
マザーボード上のSAS Slot Fault LEDが赤色に点灯し、PCIバスエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もSAS Slot Fault LEDは赤色に点灯します。マザーボード上のSAS Slot Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Server」-「Clear FRU LED」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
PCI Slot 01 CE	PCI スロット 1 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正可能なエラーが多発した。
PCI Slot 02 CE	PCI スロット 2 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正可能なエラーが多発した。
PCI Slot 03 CE	PCI スロット 3 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正可能なエラーが多発した。
PCI Slot 04 CE	PCI スロット 4 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正可能なエラーが多発した。
PCI Slot 05 CE	PCI スロット 5 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正可能なエラーが多発した。
PCI Slot 06 CE	PCI スロット 6 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正可能なエラーが多発した。
PCI Slot 07 CE	PCI スロット 7 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正可能なエラーが多発した。
PCI Slot 08 CE	PCI スロット 8 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正可能なエラーが多発した。
PCI Slot 09 CE	PCI スロット 9 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正可能なエラーが多発した。
PCI Slot 10 CE	PCI スロット 10 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正可能なエラーが多発した。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したPCIボードを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したPCIボードを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：
マザーボード上の各PCI Slot Fault LEDが赤色に点灯し、PCIバスエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もPCI Slot Fault LEDは赤色に点灯します。マザーボード上のPCI Slot Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Server」-「Clear FRU LED」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
BB IOH 1 CE 1	マザーボードに搭載されたIO Hub 1にてバス訂正可能なエラーが多発した。
BB IOH 2 CE 1	マザーボードに搭載されたIO Hub 2にてバス訂正可能なエラーが多発した。
BB IOH 1 CE 2	マザーボードに搭載されたIO Hub 1にてバス訂正可能なエラーが多発した。
BB IOH 2 CE 2	マザーボードに搭載されたIO Hub 2にてバス訂正可能なエラーが多発した。
BB IOH 1 CE 3	マザーボードに搭載されたIO Hub 1にてバス訂正可能なエラーが多発した。
BB IOH 2 CE 3	マザーボードに搭載されたIO Hub 2にてバス訂正可能なエラーが多発した。
BB IOH 1 CE 4	マザーボードに搭載されたIO Hub 1にてバス訂正可能なエラーが多発した。
BB IOH 2 CE 4	マザーボードに搭載されたIO Hub 2にてバス訂正可能なエラーが多発した。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意　味
BB　　CE 1	マザーボードにてバス訂正可能なエラーが多発した。
BB　　CE 2	マザーボードにてバス訂正可能なエラーが多発した。
BB　　CE 3	マザーボードにてバス訂正可能なエラーが多発した。
BB　　CE 4	マザーボードにてバス訂正可能なエラーが多発した。
BB　　CE 5	マザーボードにてバス訂正可能なエラーが多発した。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：

*　本装置を再立ち上げしてください。

*　問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意　味
Processor 1 CE 1	プロセッサ 1 にて内部訂正可能なエラーが多発した。
Processor 2 CE 1	プロセッサ 2 にて内部訂正可能なエラーが多発した。
Processor 3 CE 1	プロセッサ 3 にて内部訂正可能なエラーが多発した。
Processor 4 CE 1	プロセッサ 4 にて内部訂正可能なエラーが多発した。
Processor 1 CE 2	プロセッサ 1 にて外部バス訂正可能なエラーが多発した。
Processor 2 CE 2	プロセッサ 2 にて外部バス訂正可能なエラーが多発した。
Processor 3 CE 2	プロセッサ 3 にて外部バス訂正可能なエラーが多発した。
Processor 4 CE 2	プロセッサ 4 にて外部バス訂正可能なエラーが多発した。

継続して本装置の運用が可能ですが、以下を実施してください。

対処方法：

*　本装置を再立ち上げしてください。

*　問題が解決しない場合は、エラーが発生したプロセッサを取り付け直してください。

*　問題が解決しない場合は、エラーが発生したプロセッサを交換してください。

*　問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

● STATUSランプが消灯しているとき

メッセージ	意　味
SystemBIOS Start	システム BIOS が開始した。

対処方法：

エラーではありません。

メッセージ	意　味
BIOSRecovery run	システム BIOS の ROM に致命的なエラーが発生した。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* マザーボード上のジャンパピンが正しい位置に設定されていることを確認してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意　味
ErrPause in POST	重要な POST エラーが発生し、キー入力待ちになっている。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* POSTエラーメッセージやPOSTエラーコードを確認して、POSTエラーに対応した対処を実施してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意　味
MEMR 1 DIMMs UCE	メモリボード 1 に搭載された DIMM にて訂正不可能なエラーが発生した。
MEMR 2 DIMMs UCE	メモリボード 2 に搭載された DIMM にて訂正不可能なエラーが発生した。
MEMR 3 DIMMs UCE	メモリボード 3 に搭載された DIMM にて訂正不可能なエラーが発生した。
MEMR 4 DIMMs UCE	メモリボード 4 に搭載された DIMM にて訂正不可能なエラーが発生した。
MEMR 5 DIMMs UCE	メモリボード 5 に搭載された DIMM にて訂正不可能なエラーが発生した。
MEMR 6 DIMMs UCE	メモリボード 6 に搭載された DIMM にて訂正不可能なエラーが発生した。
MEMR 7 DIMMs UCE	メモリボード 7 に搭載された DIMM にて訂正不可能なエラーが発生した。
MEMR 8 DIMMs UCE	メモリボード 8 に搭載された DIMM にて訂正不可能なエラーが発生した。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードに搭載されたDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードに搭載されたDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードと接続されたプロセッサを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードと接続されたプロセッサを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

備考：
本装置の再立ち上げ後、次の情報によりエラーが発生した部品が判る場合があります。
- メモリボードのDIMM Fault LEDの状態
- POSTエラーメッセージ(POSTエラーコード)
- IPMI情報ファイル(IPMI.DATファイル)

メッセージ	意　味
Sys Mem UCE	システムメモリにて訂正不可能なエラーが発生した。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

備考：
本装置の再立ち上げ後、次の情報によりエラーが発生した部品が判る場合があります。
- メモリボードのDIMM Fault LEDの状態
- POSTエラーメッセージ(POSTエラーコード)
- IPMI情報ファイル(IPMI.DATファイル)

メッセージ	意　味
Mem Riser 1 UCE	メモリボード 1 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。
Mem Riser 2 UCE	メモリボード 2 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。
Mem Riser 3 UCE	メモリボード 3 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。
Mem Riser 4 UCE	メモリボード 4 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。
Mem Riser 5 UCE	メモリボード 5 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。
Mem Riser 6 UCE	メモリボード 6 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。
Mem Riser 7 UCE	メモリボード 7 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。
Mem Riser 8 UCE	メモリボード 8 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードに搭載されたDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードに搭載されたDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードと接続されたプロセッサを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したメモリボードと接続されたプロセッサを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意　味
IR NIC 1 UCE	I/O ライザボードに搭載されたオンボード LAN1 あるいは2 コントローラにて PCI Express バス訂正不可能なエラーが発生した。
IR NIC 2 UCE	I/O ライザボードに搭載されたオンボード LAN3 あるいは4 コントローラにて PCI Express バス訂正不可能なエラーが発生した。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意　味
SR SAS　UCE	SAS スロットに取り付けた RAID コントローラにてPCI Express バス訂正不可能なエラーが発生した。

対処方法：

* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、SASスロットに取り付けたPCIボードを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、SASスロットに取り付けたPCIボードを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：

マザーボード上のSAS Slot Fault LEDが赤色に点灯し、PCIバスエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もSAS Slot Fault LEDは赤色に点灯します。マザーボード上のSAS Slot Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Server」-「Clear FRU LED」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
PCI Slot 01 UCE	PCI スロット 1 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正不可能なエラーが発生した。
PCI Slot 02 UCE	PCI スロット 2 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正不可能なエラーが発生した。
PCI Slot 03 UCE	PCI スロット 3 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正不可能なエラーが発生した。
PCI Slot 04 UCE	PCI スロット 4 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正不可能なエラーが発生した。
PCI Slot 05 UCE	PCI スロット 5 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正不可能なエラーが発生した。
PCI Slot 06 UCE	PCI スロット 6 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正不可能なエラーが発生した。
PCI Slot 07 UCE	PCI スロット 7 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正不可能なエラーが発生した。
PCI Slot 08 UCE	PCI スロット 8 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正不可能なエラーが発生した。
PCI Slot 09 UCE	PCI スロット 9 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正不可能なエラーが発生した。
PCI Slot 10 UCE	PCI スロット 10 に取り付けた PCI ボードにて PCI Express バス訂正不可能なエラーが発生した。

対処方法：

* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したPCIボードを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したPCIボードを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

注意事項：

マザーボード上の各PCI Slot Fault LEDが赤色に点灯し、PCIバスエラー履歴情報として保持されることから、本装置の再立ち上げ時もPCI Slot Fault LEDは赤色に点灯します。マザーボード上のPCI Slot Fault LEDを消灯させる場合は、BIOSセットアップを起動し、「Server」-「Clear FRU LED」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実施してください。

メッセージ	意　味
BB IOH 1 UCE 1	マザーボードに搭載された IO Hub 1 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。
BB IOH 2 UCE 1	マザーボードに搭載された IO Hub 2 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。
BB IOH 1 UCE 2	マザーボードに搭載された IO Hub 1 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。
BB IOH 2 UCE 2	マザーボードに搭載された IO Hub 2 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。
BB IOH 1 UCE 3	マザーボードに搭載された IO Hub 1 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。
BB IOH 2 UCE 3	マザーボードに搭載された IO Hub 2 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。
BB IOH 1 UCE 4	マザーボードに搭載された IO Hub 1 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。
BB IOH 2 UCE 4	マザーボードに搭載された IO Hub 2 にてバス訂正不可能なエラーが発生した。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意　味
BB　　UCE 1	マザーボードにてバス訂正不可能なエラーが発生した。
BB　　UCE 2	マザーボードにてバス訂正不可能なエラーが発生した。
BB　　UCE 3	マザーボードにてバス訂正不可能なエラーが発生した。
BB　　UCE 4	マザーボードにてバス訂正不可能なエラーが発生した。
BB　　UCE 5	マザーボードにてバス訂正不可能なエラーが発生した。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意　味
Processor 1 UCE1	プロセッサ 1 にて内部訂正不可能なエラーが発生した。
Processor 2 UCE1	プロセッサ 2 にて内部訂正不可能なエラーが発生した。
Processor 3 UCE1	プロセッサ 3 にて内部訂正不可能なエラーが発生した。
Processor 4 UCE1	プロセッサ 4 にて内部訂正不可能なエラーが発生した。
Processor 1 UCE2	プロセッサ 1 にて外部バス訂正不可能なエラーが発生した。
Processor 2 UCE2	プロセッサ 2 にて外部バス訂正不可能なエラーが発生した。
Processor 3 UCE2	プロセッサ 3 にて外部バス訂正不可能なエラーが発生した。
Processor 4 UCE2	プロセッサ 4 にて外部バス訂正不可能なエラーが発生した。

対処方法：
* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したプロセッサを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、エラーが発生したプロセッサを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

LCD下段表示メッセージ

- Statusランプが消灯しているとき

メッセージ	意　味
DUMP Request!	DUMP スイッチが押された。

対処方法：

OSダンプが完了するまでお待ちください。
ダンプが正常に終了しなかった場合には、以下を実行してください。

1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
SMI Timeout	システム管理割り込み中にタイムアウトが発生した。
WDT Timeout	ウォッチドックタイムアウトが発生した。
WDT Power Cycle	ウォッチドッグタイムアウトによりリブートが発生した。

対処方法：

1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
WDT Power Down	ウォッチドッグタイムアウトにより強制電源 OFF を行った。

対処方法：

本装置の電源をONしてください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
Proc1ThermalTrip	プロセッサ #1 の高温異常により強制的に電源OFF を行った。
Proc2ThermalTrip	プロセッサ #2 の高温異常により強制的に電源OFF を行った。
Proc3ThermalTrip	プロセッサ #3 の高温異常により強制的に電源OFF を行った。
Proc4ThermalTrip	プロセッサ #4 の高温異常により強制的に電源OFF を行った。

対処方法：

1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. 装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。
3. エラーが発生しているプロセッサの取り付け状態を確認してください。
4. エラーが発生しているプロセッサを交換してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　　味
Proc1 IERR	プロセッサ #1 で内部エラーを検出した。
Proc2 IERR	プロセッサ #2 で内部エラーを検出した。
Proc3 IERR	プロセッサ #3 で内部エラーを検出した。
Proc4 IERR	プロセッサ #4 で内部エラーを検出した。
Proc1 Config Err	プロセッサ #1 に未サポートプロセッサ、不正な組み合わせのプロセッサ、または異常なプロセッサが実装されている。
Proc2 Config Err	プロセッサ #2 に未サポートプロセッサ、不正な組み合わせのプロセッサ、または異常なプロセッサが実装されている。
Proc3 Config Err	プロセッサ #3 に未サポートプロセッサ、不正な組み合わせのプロセッサ、または異常なプロセッサが実装されている。
Proc4 Config Err	プロセッサ #4 に未サポートプロセッサ、不正な組み合わせのプロセッサ、または異常なプロセッサが実装されている。

対処方法：

1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
3. エラーが発生しているプロセッサの取り付け状態を確認してください。
4. エラーが発生しているプロセッサを交換してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
Memory Failure	システムメモリ DIMM を全く検出できなかった、あるいは致命的なエラーが発生した DIMM を検出し、使用できる DIMM が無かったことを示します。

対処方法：

* 本装置を再立ち上げしてください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボードに搭載されているDIMMを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボードを取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ1あるいはプロセッサ2を取り付け直してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボードに搭載されているDIMMを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、メモリボードを交換してください。
* 問題が解決しない場合は、プロセッサ1あるいはプロセッサ2を交換してください。
* 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意　味
Entering Setup	BIOS セットアップにて操作中であることを示します。

対処方法：

エラーではありません。

- Statusランプがアンバ色に点灯しているとき

メッセージ	意　味
Proc Missing	プロセッサが実装されていない。

対処方法：

1. プロセッサの取り付け状態を確認してください。
2. プロセッサを交換してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
PS1 AC Lost Alm	電源ユニット＃ 1の AC供給に異常が発生した。
PS2 AC Lost Alm	電源ユニット＃ 2の AC供給に異常が発生した。
PS3 AC Lost Alm	電源ユニット＃ 3の AC供給に異常が発生した。
PS4 AC Lost Alm	電源ユニット＃ 4の AC供給に異常が発生した。

対処方法：

1. 異常が発生している電源ユニットのACコード接続状況を確認してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
UnexpectedPwLost	電源異常が発生した。
PowerOnCtrlFault	電源異常が発生した。

対処方法：

保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
IOR Power Fault	I/O ライザボードの電源回路の異常を検出した。
FPFB Power Fault	フロントパネル FAN ボードの電源回路の異常を検出した。
PSU Power Fault	パワーディストリビューションボードの電源回路の異常を検出した。
BB Power Fault	マザーボードの電源回路の異常を検出した。

対処方法：

1. 本装置を再立ち上げ（リセット）してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
MEM1 Power Fault	メモリバックボード #1 の電源回路の異常を検出した。
MEM2 Power Fault	メモリバックボード #2 の電源回路の異常を検出した。
MEM3 Power Fault	メモリバックボード #3 の電源回路の異常を検出した。
MEM4 Power Fault	メモリバックボード #4 の電源回路の異常を検出した。
MEM5 Power Fault	メモリバックボード #5 の電源回路の異常を検出した。
MEM6 Power Fault	メモリバックボード #6 の電源回路の異常を検出した。
MEM7 Power Fault	メモリバックボード #7 の電源回路の異常を検出した。
MEM8 Power Fault	メモリバックボード #8 の電源回路の異常を検出した。

対処方法：

1. 本装置を再立ち上げ（リセット）してください。
2. エラーが発生しているメモリバックボードの取り付け状態を確認してください。
3. エラーが発生しているメモリバックボードを交換してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
Proc1 CacheAlm02	プロセッサ #1 のキャッシュ電圧異常（下限）を検出した。
Proc1 CacheAlm09	プロセッサ #1 のキャッシュ電圧異常（上限）を検出した。
Proc2 CacheAlm02	プロセッサ #2 のキャッシュ電圧異常（下限）を検出した。
Proc2 CacheAlm09	プロセッサ #2 のキャッシュ電圧異常（上限）を検出した。
Proc3 CacheAlm02	プロセッサ #3 のキャッシュ電圧異常（下限）を検出した。
Proc3 CacheAlm09	プロセッサ #3 のキャッシュ電圧異常（上限）を検出した。
Proc4 CacheAlm02	プロセッサ #4 のキャッシュ電圧異常（下限）を検出した。
Proc4 CacheAlm09	プロセッサ #4 のキャッシュ電圧異常（上限）を検出した。
Proc1 Core Alm02	プロセッサ #1 のコア電圧異常（下限）を検出した。
Proc1 Core Alm09	プロセッサ #1 のコア電圧異常（上限）を検出した。
Proc2 Core Alm02	プロセッサ #2 のコア電圧異常（下限）を検出した。
Proc2 Core Alm09	プロセッサ #2 のコア電圧異常（上限）を検出した。
Proc3 Core Alm02	プロセッサ #3 のコア電圧異常（下限）を検出した。
Proc3 Core Alm09	プロセッサ #3 のコア電圧異常（上限）を検出した。
Proc4 Core Alm02	プロセッサ #4 のコア電圧異常（下限）を検出した。
Proc4 Core Alm09	プロセッサ #4 のコア電圧異常（上限）を検出した。

対処方法：

1. 本装置を再立ち上げ（リセット）してください。
2. エラーが発生しているプロセッサの取り付け状態を確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
BB +3V BAT Alm02	リチウムバッテリ電圧異常（下限）を検出した。
BB +3V BAT Alm09	リチウムバッテリ電圧異常（上限）を検出した。

対処方法：

1. 本装置を再立ち上げ（リセット）してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
3. マザーボード上にあるリチウムバッテリの取り付け状態を確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　　味
Proc12 VIO Alm02	プロセッサ #1,#2 の VIO 電圧異常（下限）を検出した。
Proc12 VIO Alm09	プロセッサ #1,#2 の VIO 電圧異常（上限）を検出した。
IOR+1.0VAUX Alm02	I/O ライザボードの 1.0VAUX 電圧異常（下限）を検出した。
IOR+1.0VAUX Alm09	I/O ライザボードの 1.0VAUX 電圧異常（上限）を検出した。
IOR+1.5VAUX Alm02	I/O ライザボードの 1.5VAUX 電圧異常（下限）を検出した。
IOR+1.5VAUX Alm09	I/O ライザボードの 1.5VAUX 電圧異常（上限）を検出した。
IOR+1.8VAUX Alm02	I/O ライザボードの 1.8VAUX 電圧異常（下限）を検出した。
IOR+1.8VAUX Alm09	I/O ライザボードの 1.8VAUX 電圧異常（上限）を検出した。
BB +1.1Vs Alm02	1.1Vs 電圧異常（下限）を検出した。
BB +1.1Vs Alm09	1.1Vs 電圧異常（上限）を検出した。
BB +1.1V Alm02	1.1V 電圧異常（下限）を検出した。
BB +1.1V Alm09	1.1V 電圧異常（上限）を検出した。
BB +1.5V Alm02	1.5V 電圧異常（下限）を検出した。
BB +1.5V Alm09	1.5V 電圧異常（上限）を検出した。
BB +1.8V Alm02	1.8V 電圧異常（下限）を検出した。
BB +1.8V Alm09	1.8V 電圧異常（上限）を検出した。
IOR +3.3Vs Alm02	I/O ライザボードの 3.3Vs 電圧異常（下限）を検出した。
IOR +3.3Vs Alm09	I/O ライザボードの 3.3Vs 電圧異常（上限）を検出した。
IOR +3.3V Alm02	I/O ライザボードの 3.3V 電圧異常（下限）を検出した。
IOR +3.3V Alm09	I/O ライザボードの 3.3V 電圧異常（上限）を検出した。
Proc34 VIO Alm02	プロセッサ #3,#4 の VIO 電圧異常（下限）を検出した。
Proc34 VIO Alm09	プロセッサ #3,#4 の VIO 電圧異常（上限）を検出した。
IOR +12V Alm02	I/O ライザボードの 12V 電圧異常（下限）を検出した。
IOR +12V Alm09	I/O ライザボードの 12V 電圧異常（上限）を検出した。

対処方法：

1. 本装置を再立ち上げ（リセット）してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
3. I/Oライザボードの取り付け状態を確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　　味
FP Temp Alm02	フロントパネルで低温異常を検出した。
FP Temp Alm09	フロントパネルで高温異常を検出した。
BB Temp1 Alm02	マザーボードで低温異常を検出した。
BB Temp1 Alm09	マザーボードで高温異常を検出した。
BB Temp2 Alm02	マザーボードで低温異常を検出した。
BB Temp2 Alm09	マザーボードで高温異常を検出した。
IOR Temp Alm02	I/O ライザボードで低温異常を検出した。
IOR Temp Alm09	I/O ライザボードで高温異常を検出した。

対処方法：

装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　　味
MEM1 Temp Alm02	メモリバックボード #1 上で低温異常を検出した。
MEM1 Temp Alm09	メモリバックボード #1 上で高温異常を検出した。
MEM2 Temp Alm02	メモリバックボード #2 上で低温異常を検出した。
MEM2 Temp Alm09	メモリバックボード #2 上で高温異常を検出した。
MEM3 Temp Alm02	メモリバックボード #3 上で低温異常を検出した。
MEM3 Temp Alm09	メモリバックボード #3 上で高温異常を検出した。
MEM4 Temp Alm02	メモリバックボード #4 上で低温異常を検出した。
MEM4 Temp Alm09	メモリバックボード #4 上で高温異常を検出した。
MEM5 Temp Alm02	メモリバックボード #5 上で低温異常を検出した。
MEM5 Temp Alm09	メモリバックボード #5 上で高温異常を検出した。
MEM6 Temp Alm02	メモリバックボード #6 上で低温異常を検出した。
MEM6 Temp Alm09	メモリバックボード #6 上で高温異常を検出した。
MEM7 Temp Alm02	メモリバックボード #7 上で低温異常を検出した。
MEM7 Temp Alm09	メモリバックボード #7 上で高温異常を検出した。
MEM8 Temp Alm02	メモリバックボード #8 上で低温異常を検出した。
MEM8 Temp Alm09	メモリバックボード #8 上で高温異常を検出した。

対処方法：

1. 装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。
2. 異常が発生しているメモリバックボード/DIMMの取り付け状態を確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　　味
PS1 Temp Alm02	電源ユニット #1 で低温異常を検出した。
PS1 Temp Alm09	電源ユニット #1 で高温異常を検出した。
PS2 Temp Alm02	電源ユニット #2 で低温異常を検出した。
PS2 Temp Alm09	電源ユニット #2 で高温異常を検出した。
PS3 Temp Alm02	電源ユニット #3 で低温異常を検出した。
PS3 Temp Alm09	電源ユニット #3 で高温異常を検出した。
PS4 Temp Alm02	電源ユニット #4 で低温異常を検出した。
PS4 Temp Alm09	電源ユニット #4 で高温異常を検出した。

対処方法：

1. 電源ユニット内のFANが正常に動作しているか確認してください。
2. 装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。
3. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
4. 異常が発生している電源ユニットの取り付け状態を確認してください。
5. 異常が発生している電源ユニットを交換してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
Proc1 Therm % 09	プロセッサ #1 で高温異常を検出した。
Proc2 Therm % 09	プロセッサ #2 で高温異常を検出した。
Proc3 Therm % 09	プロセッサ #3 で高温異常を検出した。
Proc4 Therm % 09	プロセッサ #4 で高温異常を検出した。

対処方法：

1. 装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。
2. 異常が発生しているプロセッサのヒートシンクの取り付け状態を確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
HDD Fault	ハードディスクドライブの異常を検出した。

対処方法：

1. 異常が発生しているハードディスクドライブの取り付け状態を確認してください。
2. ディスクアレイを構成している場合、RAIDレベルによっては1台のハードディスクドライブが故障しても運用を続けることができますが、早急にハードディスクドライブを交換して、再構築（リビルド）を行ってください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

- Statusランプがアンバ色に点滅しているとき

メッセージ	意　味
PS1 Supply Alm	電源ユニット #1 の異常を検出した。
PS2 Supply Alm	電源ユニット #2 の異常を検出した。
PS3 Supply Alm	電源ユニット #3 の異常を検出した。
PS4 Supply Alm	電源ユニット #4 の異常を検出した。

対処方法：

1. 異常が発生している電源ユニットの接続状況を確認してください。
2. 異常が発生している電源ユニットを交換してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
Cover Open	カバーオープンを検出した。

対処方法：

トップカバーの取り付け状態を確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
Proc1 CacheAlm00	<警告レベル>プロセッサ #1のキャッシュ電圧異常（下限）を検出した。
Proc1 CacheAlm07	<警告レベル>プロセッサ #1のキャッシュ電圧異常（上限）を検出した。
Proc2 CacheAlm00	<警告レベル>プロセッサ #2のキャッシュ電圧異常（下限）を検出した。
Proc2 CacheAlm07	<警告レベル>プロセッサ #2のキャッシュ電圧異常（上限）を検出した。
Proc3 CacheAlm00	<警告レベル>プロセッサ #3のキャッシュ電圧異常（下限）を検出した。
Proc3 CacheAlm07	<警告レベル>プロセッサ #3のキャッシュ電圧異常（上限）を検出した。
Proc4 CacheAlm00	<警告レベル>プロセッサ #4のキャッシュ電圧異常（下限）を検出した。
Proc4 CacheAlm07	<警告レベル>プロセッサ #4のキャッシュ電圧異常（上限）を検出した。
Proc1 Core Alm00	<警告レベル>プロセッサ#1 のコア電圧異常（下限）を検出した。
Proc1 Core Alm07	<警告レベル>プロセッサ#1 のコア電圧異常（上限）を検出した。
Proc2 Core Alm00	<警告レベル>プロセッサ#2 のコア電圧異常（下限）を検出した。
Proc2 Core Alm07	<警告レベル>プロセッサ#2 のコア電圧異常（上限）を検出した。
Proc3 Core Alm00	<警告レベル>プロセッサ#3 のコア電圧異常（下限）を検出した。
Proc3 Core Alm07	<警告レベル>プロセッサ#3 のコア電圧異常（上限）を検出した。
Proc4 Core Alm00	<警告レベル>プロセッサ#4 のコア電圧異常（下限）を検出した。
Proc4 Core Alm07	<警告レベル>プロセッサ#4 のコア電圧異常（上限）を検出した。

対処方法：

1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. エラーが発生しているプロセッサの取り付け状態を確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
BB +3V BAT Alm00	< 警告レベル > リチウムバッテリ電圧異常（下限）を検出した。
BB +3V BAT Alm07	< 警告レベル > リチウムバッテリ電圧異常（上限）を検出した。

対処方法：

1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
3. マザーボード上にあるリチウムバッテリの取り付け状態を確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
Proc12 VIO Alm00	< 警告レベル > プロセッサ #1,#2 の VIO 電圧異常（下限）を検出した。
Proc12 VIO Alm07	< 警告レベル > プロセッサ #1,#2 の VIO 電圧異常（上限）を検出した。
IOR+1.0VAUX Alm00	< 警告レベル >I/O ライザボードの 1.0VAUX 電圧異常（下限）を検出した。
IOR+1.0VAUX Alm07	< 警告レベル >I/O ライザボードの 1.0VAUX 電圧異常（上限）を検出した。
IOR+1.5VAUX Alm00	< 警告レベル >I/O ライザボードの 1.5VAUX 電圧異常（下限）を検出した。
IOR+1.5VAUX Alm07	< 警告レベル >I/O ライザボードの 1.5VAUX 電圧異常（上限）を検出した。
IOR+1.8VAUX Alm00	< 警告レベル >I/O ライザボードの 1.8VAUX 電圧異常（下限）を検出した。
IOR+1.8VAUX Alm07	< 警告レベル >I/O ライザボードの 1.8VAUX 電圧異常（上限）を検出した。
BB +1.1Vs Alm00	< 警告レベル >1.1Vs 電圧異常（下限）を検出した。
BB +1.1Vs Alm07	< 警告レベル >1.1Vs 電圧異常（上限）を検出した。
BB +1.1V Alm00	< 警告レベル >1.1V 電圧異常（下限）を検出した。
BB +1.1V Alm07	< 警告レベル >1.1V 電圧異常（上限）を検出した。
BB +1.5V Alm00	< 警告レベル >1.5V 電圧異常（下限）を検出した。
BB +1.5V Alm07	< 警告レベル >1.5V 電圧異常（上限）を検出した。
BB +1.8V Alm00	< 警告レベル >1.8V 電圧異常（下限）を検出した。
BB +1.8V Alm07	< 警告レベル >1.8V 電圧異常（上限）を検出した。
IOR +3.3Vs Alm00	< 警告レベル >I/O ライザボードの 3.3Vs 電圧異常（下限）を検出した。
IOR +3.3Vs Alm07	< 警告レベル >I/O ライザボードの 3.3Vs 電圧異常（上限）を検出した。
IOR +3.3V Alm00	< 警告レベル >I/O ライザボードの 3.3V 電圧異常（下限）を検出した
IOR +3.3V Alm07	< 警告レベル >I/O ライザボードの 3.3V 電圧異常（上限）を検出した。
Proc34 VIO Alm00	< 警告レベル > プロセッサ #3,#4 の VIO 電圧異常（下限）を検出した。
Proc34 VIO Alm07	< 警告レベル > プロセッサ #3,#4 の VIO 電圧異常（上限）を検出した。
IOR +12V Alm00	< 警告レベル >I/O ライザボードの 12V 電圧異常（下限）を検出した。
IOR +12V Alm07	< 警告レベル >I/O ライザボードの 12V 電圧異常（上限）を検出した。

対処方法：

1. 本装置を再立ち上げ(リセット)してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
3. I/Oライザボードの取り付け状態を確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　　味
PS1FAN1 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#1内FAN#1の異常を検出した。
PS1FAN2 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#1内FAN#2の異常を検出した。
PS1FAN3 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#1内FAN#3の異常を検出した。
PS1FAN4 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#1内FAN#4の異常を検出した。
PS2FAN1 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#2内FAN#1の異常を検出した。
PS2FAN2 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#2内FAN#2の異常を検出した。
PS2FAN3 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#2内FAN#3の異常を検出した。
PS2FAN4 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#2内FAN#4の異常を検出した。
PS3FAN1 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#3内FAN#1の異常を検出した。
PS3FAN2 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#3内FAN#2の異常を検出した。
PS3FAN3 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#3内FAN#3の異常を検出した。
PS3FAN4 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#3内FAN#4の異常を検出した。
PS4FAN1 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#4内FAN#1の異常を検出した。
PS4FAN2 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#4内FAN#2の異常を検出した。
PS4FAN3 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#4内FAN#3の異常を検出した。
PS4FAN4 Alm 00	<警告レベル>電源ユニット#4内FAN#4の異常を検出した。

対処方法：

1. 電源ユニット内のFANが正常に動作しているか確認してください。
2. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
3. 異常が発生している電源ユニットの取り付け状態を確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　　味
FAN1 Alm 00	<警告レベル>FAN#1の異常を検出した。
FAN2 Alm 00	<警告レベル>FAN#2の異常を検出した。
FAN3 Alm 00	<警告レベル>FAN#3の異常を検出した。
FAN4 Alm 00	<警告レベル>FAN#4の異常を検出した。
FAN5 Alm 00	<警告レベル>FAN#5の異常を検出した。
FAN6 Alm 00	<警告レベル>FAN#6の異常を検出した。
FAN7 Alm 00	<警告レベル>FAN#7の異常を検出した。
FAN8 Alm 00	<警告レベル>FAN#8の異常を検出した。

対処方法：

装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
FP Temp Alm00	<警告レベル>フロントパネルで低温異常を検出した。
FP Temp Alm07	<警告レベル>フロントパネルで高温異常を検出した。
BB Temp1 Alm00	<警告レベル>マザーボードで低温異常を検出した。
BB Temp1 Alm07	<警告レベル>マザーボードで高温異常を検出した。
BB Temp2 Alm00	<警告レベル>マザーボードで低温異常を検出した。
BB Temp2 Alm07	<警告レベル>マザーボードで高温異常を検出した。
IOR Temp Alm00	<警告レベル>I/Oライザボードで低温異常を検出した。
IOR Temp Alm07	<警告レベル>I/Oライザボードで高温異常を検出した。

対処方法：

装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
MEM1 Temp Alm00	<警告レベル>メモリバックボード#1上で低温異常を検出した。
MEM1 Temp Alm07	<警告レベル>メモリバックボード#1上で高温異常を検出した。
MEM2 Temp Alm00	<警告レベル>メモリバックボード#2上で低温異常を検出した。
MEM2 Temp Alm07	<警告レベル>メモリバックボード#2上で高温異常を検出した。
MEM3 Temp Alm00	<警告レベル>メモリバックボード#3上で低温異常を検出した。
MEM3 Temp Alm07	<警告レベル>メモリバックボード#3上で高温異常を検出した。
MEM4 Temp Alm00	<警告レベル>メモリバックボード#4上で低温異常を検出した。
MEM4 Temp Alm07	<警告レベル>メモリバックボード#4上で高温異常を検出した。
MEM5 Temp Alm00	<警告レベル>メモリバックボード#5上で低温異常を検出した。
MEM5 Temp Alm07	<警告レベル>メモリバックボード#5上で高温異常を検出した。
MEM6 Temp Alm00	<警告レベル>メモリバックボード#6上で低温異常を検出した。
MEM6 Temp Alm07	<警告レベル>メモリバックボード#6上で高温異常を検出した。
MEM7 Temp Alm00	<警告レベル>メモリバックボード#7上で低温異常を検出した。
MEM7 Temp Alm07	<警告レベル>メモリバックボード#7上で高温異常を検出した。
MEM8 Temp Alm00	<警告レベル>メモリバックボード#8上で低温異常を検出した。
MEM8 Temp Alm07	<警告レベル>メモリバックボード#8上で高温異常を検出した。

対処方法：

1. 装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。
2. 異常が発生しているメモリボード/DIMMの取り付け状態を確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
PS1 Temp Alm00	＜警告レベル＞電源ユニット#1で低温異常を検出した。
PS1 Temp Alm07	＜警告レベル＞電源ユニット#1で高温異常を検出した。
PS2 Temp Alm00	＜警告レベル＞電源ユニット#2で低温異常を検出した。
PS2 Temp Alm07	＜警告レベル＞電源ユニット#2で高温異常を検出した。
PS3 Temp Alm00	＜警告レベル＞電源ユニット#3で低温異常を検出した。
PS3 Temp Alm07	＜警告レベル＞電源ユニット#3で高温異常を検出した。
PS4 Temp Alm00	＜警告レベル＞電源ユニット#4で低温異常を検出した。
PS4 Temp Alm07	＜警告レベル＞電源ユニット#4で高温異常を検出した。

対処方法：

1. 電源ユニット内のFANが正常に動作しているか確認してください。
2. 装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。
3. 本装置をDC-Offした後、ACコードを抜いてください。その後、ACコードを再接続し本装置を再起動してください。
4. 異常が発生している電源ユニットの取り付け状態を確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

メッセージ	意　味
Proc1 Therm % 07	＜警告レベル＞プロセッサ#1で高温異常を検出した。
Proc2 Therm % 07	＜警告レベル＞プロセッサ#2で高温異常を検出した。
Proc3 Therm % 07	＜警告レベル＞プロセッサ#3で高温異常を検出した。
Proc4 Therm % 07	＜警告レベル＞プロセッサ#4で高温異常を検出した。

対処方法：

1. 装置内のFANが正常に動作しているか確認してください。
2. 異常が発生しているプロセッサのヒートシンクの取り付け状態を確認してください。

問題が解決しない場合には、保守サービス会社へ連絡してください。

Windowsのエラーメッセージ

Windowsオペレーティングシステムの起動後に致命的なエラー（STOPエラーやシステムエラー）が起きるとディスプレイ装置の画面がブルーに変わり、エラーに関する詳細なメッセージが表示されます。

```
*** STOP: 0x0000000A (0x00000074, 0x00000002, 0x00000001, 0x80108E7A)
IRQL_NOT_LESS_OR_EQUAL*** Address 80108E7A has base at 8010000 _ ntoskrnl.exe
```

画面に表示されたメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。
また、このエラーが起きると自動的にメモリダンプを実行し任意のディレクトリにメモリダンプのデータを保存します（「メモリダンプ（デバッグ情報）の設定」112ページ参照）)。のちほど保守サービス会社の保守員からこのデータを提供していただくよう依頼される場合があります。MOやDATなどのメディアにファイルをコピーしての保守員に渡せるよう準備しておいてください。

重要

STOPエラーやシステムエラーが発生しシステムを再起動したとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。

チェック

このファイルをメディアにコピーする前に、イベントビューアを起動して、システムイベントログでSave Dumpのイベントログが記録され、メモリダンプが保存されたことを確認してください。

このほかにもディスクやネットワーク、プリンタなど内蔵デバイスや周辺機器にエラーが起きた場合にも警告メッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

サーバ管理アプリケーションからのエラーメッセージ

ESMPRO/ServerAgentやESMPRO/ServerManager、RAIDシステム管理ユーティリティなどの管理ツールを本装置や管理PCへインストールしておくと、何らかの障害が起きたときに管理PCや本体に接続しているディスプレイ装置から障害の内容を知ることができます。

各種アプリケーションのインストールや運用方法についてはソフトウェア編、またはオンラインドキュメントを参照してください。
ESMPROを使ったシステム構築や各種設定の詳細についてはオンラインヘルプで詳しく説明されています。

トラブルシューティング

思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容に従って本装置をチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。
それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

本装置について

[?] 画面が出ない、ビープ音が鳴る

□ DIMMボードが確実に実装されていますか？

→ DIMMがしっかりとコネクタに実装されているか確認してください。

→ 同一BANK内に異なった仕様のDIMMが実装されていないか確認してください。DIMMの仕様については241ページの「DIMM」を参照してください。

→ 本装置はPOWER ONから画面が表示されるまで装置の構成によって異なりますが1～10分程度かかる場合があります。ランプ表示異常でない場合やビープ音が鳴っていない場合にはしばらく待って様子をみてください。

[?] 電源がONにならない

□ 電源が本装置に正しく供給されていますか？

→ 電源コードが本装置の電源規格に合ったコンセント（またはUPS）に接続されていることを確認してください。

→ 本装置に添付の電源コードを使用してください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていたりしていないことを確認してください。

→ 接続したコンセントのブレーカがONになっていることを確認してください。

→ UPSに接続している場合は、UPSの電源がONになっていること、およびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくはUPSに添付のマニュアルを参照してください。
また、本装置のBIOSセットアップユーティリティでUPSとの電源連動機能の設定ができます。
<確認するメニュー：「Server」→「AC-LINK」>

□ POWER/SLEEPスイッチを押しましたか？

→ 本装置前面にあるPOWERスイッチを押して電源をON（POWERランプ点灯）にしてください。

[?] 電源がOFFにならない・POWER/SLEEPスイッチが機能しない

□ POWER/SLEEPスイッチの機能を無効にしていませんか？

→ いったん本装置を再起動して、BIOSセットアップユーティリティを起動してください。
<確認するメニュー：「Security」→「Power Switch Inhibit」>

【?】POSTが終わらない

□ メモリが正しく搭載されていますか?

→ 最低2枚1組のDIMMが搭載されていないと動作しません。

□ 大容量のメモリを搭載していますか?

→ 搭載しているメモリサイズによってはメモリチェックで時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。

□ 本装置の起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか?

→ 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、POSTは誤ってキーボードコントローラの異常を検出し、処理を停止してしまうことがあります。そのときはもう一度、起動し直してください。また、再起動直後は、BIOSの起動メッセージなどが表示されるまでキーボードやマウスを使って操作しないよう注意してください。

□ 本装置で使用できるメモリ・PCIデバイスを搭載していますか?

→ 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。

【?】内蔵デバイスや外付けデバイスにアクセスできない(または正しく動作しない)

□ ケーブルは正しく接続されていますか?

→ インタフェースケーブルや電源ケーブル(コード)が確実に接続されていることを確認してください。また接続順序が正しいかどうか確認してください。

□ 電源ONの順番を間違っていませんか?

→ 外付けデバイスを接続している場合は、外付けデバイス、本装置の順に電源をONにします。

□ ドライバをインストールしていますか?

→ 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバが必要なものがあります。デバイスに添付のマニュアルを参照してドライバをインストールしてください。

□ BIOSの設定を間違えていませんか?

→ PCIデバイスを接続している場合は、本装置のBIOSセットアップユーティリティでPCIデバイスの割り込みやその他の詳細な設定をしてください。(PCIデバイスについては通常、特に設定を変更する必要はありませんが、ボードによっては特別な設定が必要なものもあります。詳しくはボードに添付のマニュアルを参照して正しく設定してください。)
<確認するメニュー:「Advanced」→「Peripheral Configuration」
「Advanced」→「PCI Configuration」
「Advanced」→「Advanced Chipset Control」>

→ シリアルポートに接続しているデバイスについては、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものもあります。デバイスに添付のマニュアルを参照して正しく設定してください。
<確認するメニュー:「Advanced」→「Peripheral Configuration」>

[?] キーボードやマウスが正しく機能しない

□ ケーブルは正しく接続されていますか？

→ 本装置にあるコネクタに正しく接続されていることを確認してください。

□ ドライバをインストールしていますか？

→ 使用しているOSに添付のマニュアルを参照してキーボードやマウスのドライバがインストールされていることを確認してください（これらはOSのインストールの際に標準でインストールされます）。また、OSによってはキーボードやマウスの設定を変更できる場合があります。使用しているOSに添付のマニュアルを参照して正しく設定されているかどうか確認してください。

[?] フロッピーディスクにアクセス（読み込みまたは書き込みが）できない

□ フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットしていますか？

→ フロッピーディスクドライブに「カチッ」と音がするまで確実に差し込んでください。

□ 書き込み禁止にしていませんか？

→ フロッピーディスクのライトプロテクトスイッチのノッチを「書き込み可」にセットしてください。

□ フォーマットしていますか？

→ フォーマット済みのフロッピーディスクを使用するか、セットしたフロッピーディスクをフォーマットしてください。フォーマットの方法については、OSに添付のマニュアルを参照してください。

[?] CD-ROM、DVD-ROMにアクセスできない

□ CD-RW/DVD-ROM装置のトレーに確実にセットしていますか？

→ トレーにはCD/DVD-ROMを保持するホルダーがあります。ホルダーで確実に保持されていることを確認してください。

□ 本装置で使用できるCD/DVD-ROMですか？

→ Macintosh専用のCD/DVD-ROMは使用できません。

【?】CD-Rディスクにアクセスできない

□ CD-Rディスクの表裏を間違えてセットしていませんか？

→ トレイからCD-Rディスクを取り出し、CD-Rディスクのトップレーベルを上にして、セットし直してください。

□ CD-Rディスクに汚れやキズがありませんか？

→ CD-Rディスクの表面に指紋などの汚れやキズがないことを確認してください。汚れがある場合は、CD-Rディスクの表面をクリーニングしてください。それでも読み込みができない場合は、アクセスが可能だった別のCD-Rディスクに入れ替えて、再度、読み込みができるかどうか確認してください。

□ CD-Rディスクがクローズされた状態になっていますか？

→ セッションをクローズした状態にするかディスクを閉じた状態にして再度、読めるかどうか確認してください。

□ 書き込みドライブに適合した書き込みソフトおよびCD-RディスクでCD-Rディスクを書き込みしましたか？

→ 書き込みドライブ、書き込みソフト、およびCD-Rディスクの組み合わせが正しくない場合、本装置のCD-RW/DVD-ROM装置で読めないことがあります。

【?】ハードディスクドライブにアクセスできない

□ 本装置で使用できるハードディスクドライブですか？

→ 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。

□ ハードディスクドライブは正しく取り付けられていますか？

→ ハードディスクドライブのハンドルにあるレバーで確実にロックしてください。不完全な状態では、内部のコネクタに接続されません（228ページ参照）。

【?】SCSI機器（内蔵・外付け）にアクセスできない

□ 本体で使用できるSCSI機器ですか？

→ 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。

□ SCSIコントローラの設定を間違えていませんか？

→ オプションのSCSIコントローラを搭載し、SCSI装置を接続している場合は、SCSIコントローラが持つBIOSセットアップユーティリティで正しく設定してください。詳しくはSCSIコントローラに添付のマニュアルを参照してください。

□ SCSI機器の設定を間違えていませんか？

→ SCSI装置を接続している場合は、SCSI IDや終端抵抗などの設定が必要です。詳しくはSCSI装置に添付のマニュアルを参照してください。

[?] PCIデバイスを増設後、正しく動作しなくなった（PCIホットプラグについては517ページを参照）

□ ボードを正しく取り付けていますか？

→ 269ページを参照して正しく取り付け直してください。

□ BIOSセットアップユーティリティのOption ROM設定が、OSブートを行うボードのスロットを除き、Disableになっていますか？

→ BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー：「Advanced」→「PCI Configuration」→「PCI Slot n」（n: 取り付けたボードのPCIスロット番号）→「Option ROM Scan」>

□ ネットワークボードを増設し、ネットワークブートを行わない場合、BIOSセットアップユーティリティの設定で増設したSlotのOption ROM設定がDisableになっていますか？

→ BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー :「Advanced」→「PCI Configuration」→「PCI Slot n」（n: 取り付けたボードのPCIスロット番号）→「Option ROM Scan」>

[?] OSを起動できない

□ フロッピーディスクをセットしていませんか？

→ フロッピーディスクを取り出して再起動してください。

□ EXPRESSBUILDERをセットしていませんか？

→ EXPRESSBUILDERを取り出して再起動してください。

□ OSが破損していませんか？

→ 修復プロセスを使って修復を試してください（543ページ）。

[?] gigaドライバの速度設定を1000Mbpsから100Mbpsに変更した場合、ESMPRO/統合ビューアの『ESMPRO/ServerManagerの[サーバ状態/構成情報]』にてネットワークの詳細を参照すると、設定したスピードが不正表示（1000Mbpsから100Mbps設定時: 1000Mbpsと表示）される

→ gigaドライバの速度設定を変更した場合、表示が不正になりますが、LANドライバの動作には影響ありません。

【?】 ネットワーク上で認識されない

□ ケーブルを接続していますか？

→ 本装置背面にあるネットワークポートに確実に接続してください。また、使用するケーブルがネットワークインタフェースの規格に準拠したものであることを確認してください。

□ プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか？

→ 本装置専用のネットワークドライバをインストールしてください。また、TCP/IPなどのプロトコルのセットアップや各種サービスが確実に設定されていることを確認してください。

□ 転送速度の設定を間違えていませんか？

→ 本装置に標準装備の内蔵LANコントローラ1は、100Mbps/10Mbpsの転送速度のネットワークで使用することができます。内蔵LANコントローラ2は、1000Mbps/100Mbps/10Mbpsの転送速度のネットワークで使用することができます。この転送速度の切り替えや設定はOS上から行えますが、「Auto Detect」という機能は使用せず、接続しているHubと同じ転送速度で固定に設定してください。
また、接続しているHubとデュプレックスモードが同じであることを確認してください。

【?】 PCIホットプラグが正しく行えない

□ BIOSの設定を間違えていませんか？

→ PCIホットプラグを行う場合は、BIOSのSETUPユーティリティであらかじめ設定を変更しておく必要があります。
<確認するメニュー:「Advanced」→「PCI Configuration」→
「Hot Plug PCI Control」→
「Minimum/Middle/Maximum*」>

* 取り付けるボードによって設定値が異なります。詳細は317ページを参照してください。

【?】 PCIボードのHot Removeまたは、Hot Replaceにおいて、OSからボードのドライバを停止できない

□ Hot Removeまたは、Hot ReplaceするPCIボードを他のソフトウェアが使用していませんか？

→ Hot Removeまたは、Hot ReplaceするPCIボードを他のソフトウェアが使用しているとドライバを停止できません。該当するソフトウェアを終了させてから、PCIボードのドライバを停止させてください。Hot Replaceの場合はボードの取り付けが終了した後に、終了させたソフトウェアを起動してください。

【?】 管理PCから本装置が認識できない

□ LANケーブルが正しく接続されていますか？

→ 管理用LANポートに接続しているケーブルの状態を確認してください。ケーブルが正しく接続されていないと本装置のセンサを正しく参照することができません。
また、接続については、誤って本装置のLANコネクタに接続していないことを確認してください。

□ IPアドレスが重なっていませんか？

→ 管理用LANポートのIPアドレスは出荷時、192.168.1.1に設定されております。同一ネットワーク上に同一のIPアドレスがあると正常に認識されませんのでIPアドレスの変更を行ってください。

□ ESMPRO/ServerAgentにおいて本装置の監視設定がされていますか？

→ ESMPRO/ServerAgentの設定を変更してください。設定方法はWindowsコントロールパネルのESMPRO/ServerAgentを起動し、「システム」タブの[Express5800本体装置]ー[監視する]チェックボックスをチェックしてください。（デフォルトの設定は「監視しない」に設定されています。）設定変更後、自動的に本装置の監視が開始されます。設定変更後サーバを再起動する必要はありませんが、本装置が参照できない場合はツリーの再構築を実施してください。

□ ファイヤーウォールやゲートウェイで接続制限されていませんか？

→ ファイヤーウォールなどの接続制限に引っかかっている可能性があります。LANクロスケーブルにて直接クライアントPCを接続し接続問題が解決する場合には、ファイヤーウォールやゲートウエイなどを再確認してください。

【?】 Webブラウザからリモートマネージメント機能を利用する際のログイン名/パスワードを忘れてしまった

→ ログイン名やパスワード設定を忘れてしまったときに、BIOSセットアップユーティリティからパスワードを含む各設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。
＜確認するメニュー：
「Server」→「BMC LAN Configuration」→「Clear BMC Configuration」＞

重要

この操作を行うと、ESMPRO/ServerManager と本装置を接続するために必要なBMCの設定もクリアされます。
ESMPRO/ServerManager をご使用の場合には、本操作を行う前にESMPRO/ServerManagerと接続するための設定をFDなどに保存し、本操作後に再設定してください。
BMCの設定は、ESMPRO/ServerAgent ExtensionやEXPRESSBUILDERのシステムマネージメント機能で設定/保存できます。

Windowsについて

【?】 Windows Server 2008 R2のシステム起動時、次のような内容の警告がシステムイベントログに記録される場合がある

イベント ID　:　27
ソース　:　e1qexpress
種類　:　警告
説明　:　Intel(R) 82576NS Gigabit Ethernet Controller
Network link has been disconnected.

→　システム起動時またはシステムのアップデート適用時に記録される場合、システム動作上問題ありません。

【?】 Windows Server 2008 R2 のインストールを行うと、以下のようなシステムイベントログが登録される場合がある

イベント ID　:　134
ソース　:　Microsoft-Windows-Time-Service
種類　:　警告
説明　:　'' でのDNS 解決エラーのため、NtpClient でタイムソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。3473457 分後に再試行し、それ以降は2倍の間隔で再試行します。

→　システム運用上問題ありません。

【?】 Windows Server 2008 R2のインストール時、システムのアップデート時に以下のような警告がアプリケーションイベントログに記録される場合がある

イベント ID　:　63
ソース　:　WMI
種類　:　警告
説明　:　'プロバイダNcs2　はLocalSystem　アカウントを使うためにWindows Management Instrumentation 名前空間Root¥IntelNCS2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

→　システム運用上問題ありません。

【?】 Windows Server 2008 R2 のインストールを行うと、以下のようなアプリケーションイベントログが登録される場合がある

イベント ID　:　1534
ソース　:　Microsoft-Windows-User Profiles Service
種類　:　警告
説明　:　コンポーネント {56EA1054-1959-467f-BE3B-A2A787C4B6EA} のイベントCreate のプロファイル通知は失敗しました。

→　システム運用上問題ありません。

イベント ID　:　1015
ソース　:　Microsoft-Windows-Security-SPP
種類　:　警告
説明　:　HRESULT の詳細情報。
返された hr = 0xC004F022、元の hr = 0x80049E00

→　ライセンス認証後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。

[?] Windows Server 2008 R2の運用中、iSCSIを認識している状態でOSを再起動した場合、次のような警告がシステムイベントログに記録される場合がある

イベント ID : 1
ソース : iScsiPrt
種類 : エラー
説明 : イニシエーターはターゲットへの接続に失敗しました。ダンプ データにターゲットIPアドレスとTCPポート番号が示されています。

→ 詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照してください。
http://support.microsoft.com/kb/976072/ja

[?] Windows Server 2008 R2の運用中、書き込み禁止ボリュームを有するサーバへシャドーコピーインポートを行った場合、次のような警告がアプリケーションイベントログに記録される場合がある

イベント ID : 8193
ソース : VSS
種類 : エラー
説明 : ボリューム シャドウ コピー サービス エラー : ルーチン IOCTL_DISK_GET_DRIVE_LAYOUT_EX(¥¥?¥mpio#disk&ven_nec&prod_istorage_1000&rev_1000#1&7f6ac24&0&303030303030303031303030303032383030304636#{ GUID })- BuildLunInfoForDrive の呼び出し中に予期しないエラーが発生しました。
hr = 0x80070013, このメディアは書き込み禁止になっています。

イベント ID : 12289
ソース : VSS
種類 : エラー
説明 : 予期しないエラー DeviceIoControl(¥¥?¥storage#volume#_??_mpio#disk&ven_nec&prod_istorage_1000&rev_1000#1&7f6ac24&0&303030303030303031303030303032383030304636#{ GUID}#0000000000007e00#{ GUID }-00000000000002B8, x00560000, 0000000000000000,0,00000000004866D0,4096,[0]) です。
hr = 0x80070013, このメディアは書き込み禁止になっています。

→ 詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照してください。
http://support.microsoft.com/kb/2003016/ja

[?] Windows Server 2008 R2の運用中、フロッピードライブを有するサーバへシャドーコピーインポートを行った場合、次のような警告がアプリケーションイベントログに記録される場合がある

イベント ID : 12289
ソース : VSS
種類 : エラー
説明 : ボリューム シャドウ コピー サービス エラー:予期しないエラー DeviceIoControl(¥¥?¥fdc#generic_floppy_drive#6&6a032c4&0&0#{ GUID }-00000000000002B0,0x00560000, 0000000000000000,0,00000000001EC0E0,4096,[0]) です。
hr = 0x80070001, ファンクションが間違っています。

→ 詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照してください。
http://support.microsoft.com/kb/2003968/ja

【?】 Windows Server 2008のインストールを行うと、以下のようなシステムイベントログが登録される場合がある

イベント ID　:　5
ソース　:　storflt
種類　:　警告
説明　:　the Virtual Storage Filter Driver is disabled through the registry.
It is inactive for all disk drivers.

イベント ID　:　134
ソース　:　Microsoft-Windows-Time-Service
種類　:　警告
説明　:　'time.windows.com,0x9' での DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイム ソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。
15 分後に再試行し、それ以降は再試行間隔を 2 倍にします。
エラー : Hote inconnu. (0x80072AF9)

イベント ID　:　263
ソース　:　PlugPlayManager
種類　:　警告
説明　:　サービス 'ShellHWDetection' は停止する前に、デバイス イベント通知の登録解除を行っていない可能性があります。

イベント ID　:　7000
ソース　:　Service Control Manager
種類　:　エラー
説明　:　Parallel port driver サービスを、次のエラーが原因で開始できませんでした: '指定されたサービスは無効であるか、または有効なデバイスが関連付けられていないため、開始できません。

イベント ID　:　15016
ソース　:　Microsoft-Windows-HttpEvent
種類　:　エラー
説明　:　サーバー側認証用のセキュリティ パッケージ Kerberos を初期化できません。データ フィールドにはエラー番号が格納されています。

→　システム運用上、問題ありません。

[?] Windows Server 2008のインストールを行うと、以下のようなアプリケーションイベントログが登録される場合がある

イベント ID　：63
ソース　：Microsoft-Windows-WMI
種類　：警告
説明　：プロバイダ Ncs2 は LocalSystem アカウントを使うためにWindows Management Instrumentation 名前空間 Root¥IntelNCS2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

プロバイダ IntelEthernetDiag は LocalSystem アカウントを使うためにWindows Management Instrumentation 名前空間 Root¥CIMv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

プロバイダ WmiPerfClass は LocalSystem アカウントを使うためにWindows Management Instrumentation 名前空間 root¥cimv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

イベント ID　：1020
ソース　：EvntAgnt
種類　：エラー
説明　：レジストリパラメータの処理中にエラーが発生しました。
拡張エージェントは終了中です。

イベント ID　：1054
ソース　：Security-Licensing-SLC
種類　：警告
説明　：コンポーネントエラーです。hr=0x80049E00, [4, 3]

イベント ID　：2019
ソース　：EvntAgnt
種類　：エラー
説明　：SNMP Event Log Extension Agentが正しく初期化されませんでした。

イベント ID　：3001
ソース　：EvntAgnt
種類　：警告
説明　：ログファイルは末尾に配置されませんでした。

イベント ID　：3003
ソース　：EvntAgnt
種類　：警告
説明　：ログファイルの終わりの配置エラー
一番古いログレコードを取得できません。指定されたハンドルは17891340です。
GetOldestEventLogRecordからのリターンコードは223です。

→　システム運用上、問題ありません。

[?] Windows Server 2008/Windows Server 2008 x64 Editionsのシステム起動時、次のような内容の警告がシステムイベントログに記録される場合がある

イベント ID　:　27
ソース　:　e1qexpress
種類　:　警告
説明　:　Intel(R) 82576NS Gigabit Ethernet Controller
Network link has been disconnected.

→　システム起動時またはシステムのアップデート適用時に記録される場合、システム動作上問題ありません。

[?] Windows Server 2008のインストールを行うと、次のイベントがシステムイベントログに記録される場合がある

イベント ID　:　10
ソース　:　VDS 動的なプロバイダ
説明　:　ドライバからの通知を格納するが、プロバイダに失敗しました。
仮想ディスク サービスを再起動する必要があります。hr = 80042505

→　詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照ください。
http://support.microsoft.com/kb/948275/ja

[?] Windows Server 2008のインストールを行うと、次のイベントがシステムイベントログに記録される場合がある

ソース　:　Microsoft-Windows-Security-Licensing-SLC
種類　:　警告
イベント ID　:　1021
説明　:　SLUINotify サービスを開始できませんでした。hr=0x80070424

→　ライセンス認証画面より、ライセンス認証を行ってください。

ソース　:　Microsoft-Windows-User Profiles Service
種類　:　警告
イベント ID　:　1534
説明　:　コンポーネント {56EA1054-1959-467f-BE3B-A2A787C4B6EA} のイベント Create のプロファイル通知は失敗しました。
エラー コードは -2147023591 です。

→　ログオン時一度登録される場合がありますが、システム運用上問題ありません。

[?] Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース　: LoadPerf
種類　: エラー
イベントID　: 3009

説明 : サービス C:¥WINDOWS¥syswow64¥ipsecprf.ini (C:¥WINDOWS¥syswow64¥ipsecprf.ini) のパフォーマンスカウンタの文字列をインストールできませんでした。
エラーコードはデータセクションの最初のDWORDです。

→　システム運用上、問題ありません。

[?] Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース　　　: DCOM
種類　　　　: エラー
イベントID : 10016

説明 : コンピュータ既定権限の設定では、CLSID
{555F3418-D99E-4E51-800A-6E89CFD8B1D7} をもつCOMサーバーアプリケーションに対するローカル アクティブ化アクセス許可をユーザー
NT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE SID (S-1-5-19)に与えることはできません。このセキュリティのアクセス許可は、コンポーネント サービス管理ツールを使って変更できます。

→ システム運用上、問題ありません。

[?] Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース　　　: WinMgmt
種類　　　　: 警告
イベントID : 5603

説明 : プロバイダRsop Planning Mode ProviderはWMI名前空間root¥RSOPに登録されましたが、HostingModelプロパティが指定されませんでした。
このプロバイダはLocalSystemアカウントで実行されます。
このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。
プロバイダのセキュリティの動作を確認し、プロバイダ登録のHostingModelプロパティを、必要な機能が実行可能な最小限の権限を持つアカウントに更新してください。

→ システム運用上、問題ありません。

[?] Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース　　　: WinMgmt
種類　　　　: 警告
イベントID : 63

説明 : プロバイダHiPerfCooker_v1はLocalSystemアカウントを使うためにWMI名前空間Root¥WMIに登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

: プロバイダ WMIProv は LocalSystem アカウントを使うために WMI 名前空間 Root¥WMIに登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

→ システム運用上、問題ありません。

[?] Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース　　　: Service Control Manager
種類　　　　: エラー
イベントID : 7011

説明 : Dfs サービスからのトランザクション応答の待機中にタイムアウト (30000 ミリ秒) になりました。

→ 再起動後にこのイベントが登録されていない場合、問題ありません。

[?] Windows Server 2003/Windows Server 2003 x64 Editionsの運用中、標準装備のネットワークアダプタでネットワークで通信ができない状態でシステムを起動すると次のような内容のログがシステムイベントログに記録される場合がある

イベントID : 32
ソース　　　: e1qexpress
種類　　　　: 情報
説明　　　　: Intel(R) 82576NS Gigabit Ethernet Controller
Network link has been established at 1Gbps full duplex.

→ システム起動時に記録される場合、システム動作上問題ありません。

[?] Windows Server 2003/Windows Server 2003 x64 EditionsでIntel(R) PROSetをインストール時にアプリケーションログに次のような警告が記録される場合がある

イベントID : 5603
ソース　　　: WinMgmt
種類　　　　: 警告

説明 : プロバイダ Ncs2 は WMI 名前空間 Root¥IntelNCS2 内で登録されましたが、HostingModel プロパティを指定しませんでした。このプロバイダは、LocalSystem アカウントを使って実行されます。このアカウントは特権を与えられているため、プロバイダが正しくユーザー要求を偽装できない場合、セキュリティ違反を起こす可能性があります。

→ システム運用上問題ありません。

[?] Telnetサービスがインストールされていない

→ コンピュータ名を14文字以下にして、<Telnetサービスのインストール手順>に従ってTelnetサービスをインストールしてください。

<Telnetサービスのインストール手順>

(1) スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

(2) [名前]ボックスに「tlntsvr /service」と入力し、[OK]をクリックする。

(3) スタートメニューから[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を開き、サービスの一覧にTelnetサービスが登録されていることを確認する。

* Telnetサービスのインストール後は、コンピュータ名を15文字以上に設定しても問題ありません。

[?] Windows Server 2003 R2の運用中、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース　　　：IPMIDRV
種類　　　　：エラー
イベントID ：1001

説明：IPMIデバイスドライバは、IPMI BMCデバイスがシステムでサポートされているかどうか判断しようとしました。このドライバは、SMBIOSのType38 レコードを検索できることでIPMI BMCを検出しようとしましたが、レコードが見つからないか、レコードにデバイスドライバのバージョンとの互換性がありませんでした。SMBIOSのType 38 レコードが見つかっている場合は、イベントのDump Dateフィールドにこのレコードがバイナリ表示されます。

→ Windows Server 2003 R2において提供されている「ハードウェアの管理」を利用している場合、上記のイベントログが登録されます。
詳細な内容については、下記の「Windows Server 2003 R2で提供される「ハードウェアの管理」利用の手引き」を参照してください。

http://support.express.nec.co.jp/care/techinfo/w2k3r2_wm.pdf

[?] Windows Server 2003 R2をインストール中、Windows Server 2003 R2 DISC 2をインストールする前にサービスパックを適用した

→ Windows Server 2003 R2 DISC 2をインストール後、「システムのアップデート」にてサービスパックを再適用してください。

[?] 以下のイベントログが記録される

ソース　　　：E100B
種類　　　　：警告
イベントID ：4
メッセージ ：Adapter Intel(R) PRO/100 Network Connection: Adapter Link Down
該当装置　　：<本装置のモデル名>
該当LAN　　：100BASE

→ 本装置のLANポートにネットワークケーブルを接続していない場合に、本イベントログが登録される場合がありますが、LANドライバの動作には影響ありません。ネットワークケーブルを正しく接続すると登録されなくなります。
また、100BASEのLANポートを使用しない場合は、デバイスマネージャ等から100BASEのLANを無効に設定するか、BIOSの設定にて、Disableに設定を変更することにより、登録されなくなります。

[?] 以下のメッセージが表示されログインできなくなった

> Windows 製品のライセンス認証
>
> 続行する前にWindowsのライセンス認証の手続きを実行してください。
> 手続きが完了するまでログオンすることはできません。
> 今すぐ手続きを実行しますか？
>
> [はい (Y)] [いいえ (N)] [キャンセル]

□ Windows製品のライセンス認証手続きを完了していますか？

→ Windows Server 2003では、Windows製品のライセンス認証手続きを完 了しないまま使用していると、上記のメッセージが表示されます。[はい]を選んでWindowsのライセンス認証の手続きを実行してください。

[?] Windows Server 2003の運用中、イベントビューアに下記内容のEvntAgntの警告が登録される場合がある

イベントID ：1003

説明 ：TraceFileNameパラメータがレジストリにありません。
使用した既定のトレースファイルはです。

イベント ID：1015

説明 ：TraceLevel パラメータがレジストリにありません。
使用した既定のトレース レベルは32です。

→ システム運用上、問題ありません

[?] Windowsのインストール中、イベントビューアのシステムログに次のような内容の警告が記録される

ページング操作中にデバイス ¥Device¥CdRom0上でエラーが検出されました。

→ システムの運用上、問題ありません。

[?] Windowsのインストール中、テキストベースのセットアップ画面で、文字化けしたメッセージが表示され、インストールが続行できない

□ 複数のハードディスクドライブを接続したり、複数の論理ドライブを作成してインストールを行っていませんか？

→ OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブをいったん取り外した状態でインストールを行ってください。

→ RAIDシステムを構築してOSをインストールする場合は、論理ドライブを複数作成せず、1つだけ作成してインストールを行ってください。複数の論理ドライブを作成する場合は、インストール完了後、RAIDのコンフィグレーションユーティリティを使用して追加作成してください。

[?] Windowsのインストール中、イベントビューアのシステムログに以下のログが出力される

サーバはトランスポート¥Device¥NetBT_Tcpip_{.....}にバインドできませんでした。

トランスポートが初期アドレスのオープンを拒否したため、初期化に失敗しました。

ネットワークの別のコンピュータが同じ名前を使用しているため、サーバーはトランスポート ¥Device¥NetbiosSmbにバインドできませんでした。サーバーを起動できませんでした。

→ ネットワークドライバの更新時に発生します。システムの運用上、問題ありません。

[?] Windowsのインストールを正しくできない

□ インストール時の注意事項を確認していますか？

→ 26ページ（または、オンラインドキュメント）を参照してください。

[?] Windowsのインストール後にデバイス マネージャで日本語106/109 キーボードが英語101/102 キーボードと認識される

→ デバイス マネージャでは英語101/102キーボードと認識されていますが、キーボードの入力は日本語106/109キーボードの配列で行うことができます。日本語106/109キーボードに変更したいときは、以下の手順で変更してください。

(1) [スタートメニュー]から[設定]を選択し、[コントロールパネル]を起動する。

(2) [管理ツール]内の[コンピュータの管理]を起動し、[デバイスマネージャ]をクリックする。

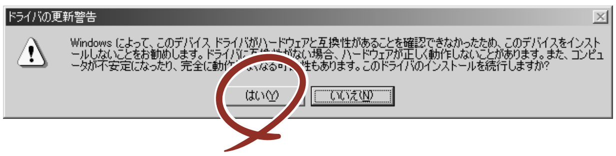
(3) [キーボード]をクリックし、以下のプロパティを開く。
101/102英語キーボードまたは、Microsoft Natural PS/2キーボード

(4) [ドライバ]タブの[ドライバの更新]をクリックし、[このデバイスの既知のドライバを表示してその一覧から選択する]を選択する。

(5) 「このデバイス クラスのハードウェアをすべて表示」を選択し、日本語 PS/2 キーボード（106/109キー）を選択して[次へ］をクリックする。

(6) ウィザードに従ってドライバを更新してコンピュータを再起動する。

(7) 以下のメッセージが表示された場合は、［はい］をクリックして操作を続行する。



[?] Windowsの動作が不安定

□ システムのアップデートを行いましたか？

→ OSをインストールした後にネットワークドライバをインストールすると動作が不安定になることがあります。
システムのアップデート手順は、EXPRESSBUILDERに格納されている各OSのインストレーションサプリメントガイドを参照してください。

[?] 障害発生時、「自動的に再起動する」の設定で、設定どおりに動作しない

→ 障害発生時に「自動的に再起動する」の設定にかかわらず、自動的に再起動する場合や再起動しない場合があります。再起動しない場合は、手動で再起動してください。

[?] ブルー画面で電源OFFができない

→ ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF(POWERスイッチを4秒間押し続ける)を行ってください。一度押しでは電源はOFFになりません。

【?】プロセッサを増設後、起動するたびにイベントログが表示される

→ オプションのプロセッサの中には異なるレビジョン（ステッピング）のものが含まれている場合があります。異なるレビジョンのプロセッサを混在して取り付けた場合、Windowsではイベントビューアのシステムログに下図のようなログが表示されますが、動作には問題ありません。



【?】［システムプロパティ］の［全般］タブの中でプロセッサの名称がずれて表示される

→ 本装置の動作には問題ありません。

【?】システム起動時に、システムイベントログに次のような内容のエラー、および警告が記録される場合がある

イベント ID　：　11
ソース　：　iANSMiniport
種類　：　警告
分類：　なし
説明　：　次のアダプタリンクは接続されていません。
Intel(R) ～

イベント ID　：　13
ソース　：　iANSMiniport
種類　：　警告
分類：　なし
説明　：　Intel(R) ～ がチームで無効化されました。

イベント ID　：　16
ソース　：　iANSMiniport
種類　：　警告
分類：　なし
説明　：　[チーム名]、最後のアダプタはリンクを失いました。
ネットワークの接続が失われました。

イベント ID　：　22
ソース　：　iANSMiniport
種類　：　警告
分類：　なし
説明　：　プライマリアダプタはプローブを検出しませんでした。
Intel(R) ～ 原因でチームが分割されている可能性があります。

→ ネットワークアダプタでチームを設定をした場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LANドライバの動作上問題ありません。

【?】 システム時刻がずれる

→ NTP（Network Time Protocol）サーバなど時刻を調整するサーバを利用しない場合、実時刻に対してシステム時刻がずれることがあります。この場合は、NTP サーバを利用するか、Windows Time サービスを無効に設定してください。

EXPRESSBUILDERについて

「EXPRESSBUILDER」DVDから起動できない場合は、次の点について確認してください。

□ POSTの実行中に「EXPRESSBUILDER」DVDをセットし、再起動しましたか？

→ POSTを実行中に「EXPRESSBUILDER」DVDをセットし、再起動しないとエラーメッセージが表示されたり、OSが起動したりします。

□ BIOSのセットアップを間違えていませんか？

→ BIOSセットアップユーティリティでブートデバイスの起動順序を設定することができます。BIOSセットアップユーティリティで光ディスクドライブが最初に起動するよう順序を変更してください。
<確認するメニュー：「Boot」>

□ 未フォーマット状態のFlash FDD、又はFDを接続していませんか？

→ 接続されているFlash FDD、又はFDがWindowsからフォーマット済みと認識されることを確認してください。未フォーマット状態の場合はフォーマットしてください。

EXPRESSBUILDER実行中、何らかの障害が発生すると、以下のようなメッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	原因
本プログラムの動作対象マシンではありません。	EXPRESSBUILDER の対象マシンではありません。 対象マシンで実行してください。

この他にもシームレスセットアップやシステム診断を実行したときに障害を検出するとエラーメッセージが表示されます。表示されたメッセージをメモし、保守サービス会社までご連絡ください。

RAIDシステムに関するセットアップ中に障害を検出するとRAIDシステムのセットアップをスキップします。このようなメッセージが現れた場合は、RAIDコントローラまたはハードディスクドライブに障害が発生している可能性があります。保守サービス会社に保守を依頼してください。

□ Boot selection画面で『Os installation***default***』を選択した場合に以下のようなメッセージが表示されます。
メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	原因
EXPRESSBUILDER は、このコンピュータを動作対象としていません。 正しいバージョンをセットして「OK」ボタンを押してください。 (「OK」ボタンを押すと再起動します)	EXPRESSBUILDER の対象マシンではありません。 対象マシンで実行してください。
マザーボード上のハードウェアに関する情報を取得できませんでした。 対象外の機種、またはマザーボードが故障している可能性があります。 (「OK」ボタンを押すと再起動します)	マザーボード交換時など、EXPRESSBUILDER が装置固有情報を見つけられない場合に表示されます。
マザーボード上のハードウェアに関する情報が不正です。 対象外の機種、またはマザーボードが故障している可能性があります。 (マザーボード交換直後にこのエラーが出たときは、「Maintenance Utility」を使ってハードウェアの情報を正しく設定してください)。	

□ Windows用OEM-Diskが作成できない場合、以下のようなメッセージが表示されます。
メッセージの内容を確認して、原因にある対処を行ってください。

メッセージ	原因
フォーマットに失敗しました。書き込み禁止になっているか、フロッピーディスクが破損している可能性があります。 フロッピーディスクを確認し、再度 OEM-Disk の作成を実行してください。	Flash FDD もしくはフロッピーディスクが書き込み禁止になっています。 書き込み禁止を解除してください。 フロッピーディスクをご使用の場合で、書き込み禁止になっていない場合、フロッピーディスクドライブを接続しなおしてください。
ファイルの削除に失敗しました。 書き込み禁止になっていないかなど、メディアの状態を確認してください。	

シームレスセットアップについて

【?】 ドメインに参加するように設定したのに、ワークグループでインストールされている

→ LANケーブルが接続されていなかった場合、ドメイン参加設定ではなく、ワークグループ設定でインストールされます。OS起動後に、ドメイン参加を行ってください。

【?】 シームレスセットアップ中、外付けハードディスクドライブの中身が消去された

□ OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続していませんか?

→ OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを取り外し、シームレスセットアップを行ってください。

【?】 ネットワークの接続名が『Local Area Connection』になっている

→ シームレスセットアップの仕様です。
ネットワーク接続名を変更する場合は、シームレスセットアップ完了後に実施してください。

【?】 HDDの先頭に未使用領域がある

□ インストールしたOSはWindows Server 2003ですか?

→ Windows Server 2003 でシームレスセットアップを実行した場合、HDDの先頭8MBが未使用領域となる場合がありますが、システム運用上、問題ありません。

【?】 プロダクトキーを入力するタイミングがない

□ Windows Server 2008 の場合

→ バックアップDVD-ROMを使用してインストールする場合、プロダクトキーの入力は必要ありません。バックアップDVD-ROM以外のOS DVD-ROMを使用している場合は、プロダクトキーの入力画面が、“OSセットアップ中”および“OSインストール後に表示される[マイクロソフトソフトウェアライセンス条項]前”に2回表示されますのでメッセージに従って プロダクトキーを入力してください。

□ Windows Server 2003 の場合

→ バックアップCD-ROMを使用してインストールする場合、プロダクトキーの入力は必要ありません。バックアップCD-ROM以外のOS CD-ROMを使用している場合は、プロダクトキーの入力画面がOSセットアップ中に表示されますのでメッセージに従ってプロダクトキーを入力してください。

【?】 Windows Server 2008 をシームレスセットアップでIISをインストールした場合、以下の機能がインストールされている

□ Windows プロセスアクティブ化サービス
- プロセスモデル
- 構成API

□ リモートサーバ管理ツール
- 役割管理ツール
- Webサーバ(IIS)ツール

→ IISの基本機能をインストールする場合は、上記の機能をインストールする必要があるため、有効になります。

オートランで起動するメニューについて

【?】 オンラインドキュメントが読めない

□ Adobe Readerが正しくインストールされていますか？

→ オンラインドキュメントの文書の一部は、PDFファイル形式で提供されています。あらかじめAdobe Readerをインストールしておいてください。

□ 使用しているOSは、Windows XP SP2ですか？

→ SP2にてオンラインドキュメントを表示しようとすると、ブラウザ上に以下のような情報バーが表示されることがあります。

「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう、Internet Explorerで制限されています。オプションを表示するには、ここをクリックしてください...」

この場合以下の手順にてドキュメントを表示させてください。

(1) 情報バーをクリックする。
ショートカットメニューが現れます。

(2) ショートカットメニューから、「ブロックされているコンテンツを許可」を選択する。
「セキュリティの警告」ダイアログボックスが表示されます。

(3) ダイアログボックスにて「はい」を選択する。

[?] メニューが表示されない

□ ご使用のOSは、Windows XP以降、またはWindows Server 2003以降ですか？

→ 本プログラムは、Windows XP以降またはWindows Server 2003以降のオペレーティングシステムにて動作させてください。

→ Windows 2000の場合は、あらかじめIE6.0をインストールしてください。

□ <Shift>キーを押していませんか？

→ <Shift>キーを押しながらディスクをセットすると、オートラン機能がキャンセルされます。

□ OSの状態は問題ありませんか？

→ レジストリ設定やディスクをセットするタイミングによっては、メニューが起動しない場合があります。そのような場合は、エクスプローラから「マイコンピュータ」を選択し、セットしたDVDドライブのアイコンをダブルクリックしてください。

[?] メニューが英語で表示される

□ ご使用の環境は正しいですか？

→ オペレーティングシステムが英語バージョンの場合、メニューは英語で表示されます。日本語メニューを起動させたい場合は、日本語バージョンのオペレーティングシステムにて動作させてください。

[?] メニュー項目がグレイアウトされている

□ ご使用の環境は正しいですか？

→ Administrator権限のないユーザーでログインした場合や、本装置以外の装置上で実行した場合など、ご使用の環境がソフトウェアのインストール環境に合致しないとき、メニュー項目がグレイ表示されます。適切な装置、ユーザーにてログイン後、再度実行してください。

RAIDシステム、RAIDコントローラについて

RAIDシステムを構成している本体装置がうまく動作しないときや、管理ユーティリティが正しく機能しないときは次の点について確認してください。また、該当する項目があったときは、処理方法に従った操作をしてください。

[?] OSをインストールできない

□ RAIDコントローラのコンフィグレーションを行いましたか？

→ WebBIOS使って正しくコンフィグレーションしてください。

[?] OSを起動できない

□ RAIDコントローラのBIOS設定が変更されていませんか？

→ WebBIOSを使って正しく設定してください。

□ POSTでRAIDコントローラを認識していますか？

→ RAIDコントローラが正しく接続されていることを認識してから電源をONにしてください。

→ 正しく接続していても認識されない場合は、RAIDコントローラの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

[?] リビルドができない

□ リビルドするハードディスクドライブの容量が少なくありませんか？

→ 故障したハードディスクドライブと同じ容量のハードディスクドライブを使用してください。

□ 論理ドライブが、RAID0ではありませんか？

→ RAID0には冗長性がないため、リビルドはできません。故障したハードディスクドライブを交換して、再度コンフィグレーション情報を作成し、イニシャライズを行ってからバックアップデータを使用して復旧してください。

[?] オートリビルドができない

□ ハードディスクドライブを交換（ホットスワップ）するときに十分な時間をあけましたか？

→ オートリビルドを機能させるためには、ハードディスクドライブを取り出してから取り付けるまでの間に90秒以上の時間をあけてください。

[?] ハードディスクドライブがFailになった

→ 契約されている保守サービス会社または購入された販売店へ連絡してください

[?] 「ドライブ異常」「ドライブ異常回復」のログが複数回登録される

□ 故障しているハードディスクドライブに対して位置特定を実行していませんか？

→ 管理ユーティリティなどから故障してFailになったハードディスクドライブに対して位置特定を実行すると、アラートビューアでは「ドライブ異常回復」のイベントが、IPMIのログを参照するESRASユーティリティでは「デバイスベイ回復：Drive Fault」のイベントが残ることがありますが、実際に使用可能となるものではありません。
位置特定をオフすると、アラートビューアでは再度「ドライブ異常」のイベントが、ESRASユーティリティでは「デバイスベイ異常：Drive Fault」のイベントが残ります。ドライブの状態を確認する場合は、必ず位置特定オフにしてからご確認してください。

→ 契約されている保守サービス会社または購入された販売店へ連絡し故障したハードディスクドライブの交換をしてください。

[?] 整合性チェックが実行できない

□ 論理ドライブが「Degraded」になっていませんか？

→ 故障しているハードディスクドライブを交換し、リビルドを実施してください。

□ 論理ドライブのRAIDレベルがRAID0ではありませんか？

→ RAID0は冗長性がないため整合性チェックができません。

N8190-127/131/153/154 FibreChannelコントローラについて

[?] N8190-127/131/153/154 FibreChannel をご使用の場合、デバイスマネージャでのコントローラ名がコントローラごとに異なって表示される場合がある

→ Windows Server 2008 R2でN8190-127/131/153/154をご使用の場合、またはWindows Server 2008でN8190-127/131をご使用の場合、デバイスマネージャでのコントローラ名がコントローラごとに異なって表示される場合がありますが、動作上、問題はありません。
また、EXPRESSBUILDERに格納されている、以下のファイルを実行し再起動することで正しいコントローラ名が表示されます。

[Windows Server 2008 R2の場合]
＜光ディスクのドライブレター＞:
¥016¥win¥winnt¥ws2008x64¥r2¥elxstor¥friendlyname.exe

[Windows Server 2008 64-bit(x64) Edition の場合]
＜光ディスクのドライブレター＞:
¥016¥win¥winnt¥ws2008x64¥r1¥elxstor¥friendlyname.exe

[Windows Server 2008 32-bit(x86) Edition の場合]
＜光ディスクのドライブレター＞:
¥016¥win¥winnt¥ws2008¥elxstor¥friendlyname.exe

ExpressPicnicについて

【?】 ExpressPicnicが起動できない

→ ExpressPicnicは、「Microsoft® HTML Application host」で実行する必要があります。起動しない場合は、下記の手順で「Microsoft® HTML Application host」の関連付けを行ってください。

(1) Windowsのスタートメニューから[ファイル名を指定して実行]を選択する。

(2) %windir%¥system32¥mshta.exe /register と入力する。

ESMPROについて

【?】 ESRASユーティリティにて保守交換情報(FRU)のProc PIROMを参照すると、「チェックサムが不正です」という表示となる

→ ESRASユーティリティからCPUのPIROMを参照すると、

```
詳細情報がありません。
保守交換部品情報(FRU)が壊れています。
チェックサムが不正です。
```

と表示されることがありますが、これは故障ではなく問題ありません。
CPUのPIROMを確認したい場合はESMサーバマネージャや、オフライン保守ユーティリティからご確認ください。

ESMPRO/ServerAgentについて

→ 添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent（Windows版）インストレーションガイド」でトラブルの回避法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

ESMPRO/ServerAgent（Linux版）について

→ 添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent（Linux版）ユーザーズガイド」、「ESMPRO/ServerAgent（Linux版）インストレーションガイド」で詳しい使い方やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

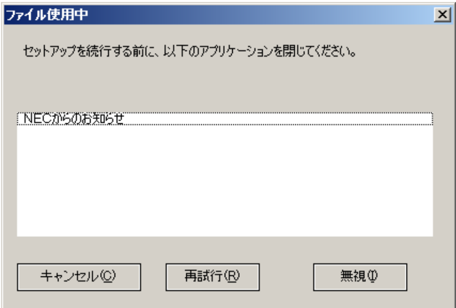
ESMPRO/ServerManagerについて

→ 添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

情報提供ツール「NECからのお知らせ」

【?】 .NET Framework Version 2.0 以降のインストール時に、情報提供ツール「NECからのお知らせ」を終了させる旨のメッセージが表示される

→ 情報提供ツール「NECからのお知らせ」をインストールしている環境で.NET Framework Version 2.0 以降をインストールする場合、事前に情報提供ツール「NECからのお知らせ」を終了させる必要があります。情報提供ツール「NECからのお知らせ」を終了させた後、改めて.NET Frameworkのインストールを開始してください。.NET Framework インストール終了後、情報提供ツール「NECからのお知らせ」を起動させてください。



【情報提供ツール「NECからのお知らせ」終了手順】

(1) デスクトップに表示されている次の画面をクリックする。



(2) 次の画面が表示されたら［キャンセル］をクリックする。



以下のメッセージが表示される場合がありますが、[キャンセル]をクリックしてください。



(3) 次の画面が表示されたら［いいえ］をクリックする。



ヒント

画面右下のタスクトレイに情報提供ツール「NECからのお知らせ」のアイコンのみ表示されている場合は、アイコンをクリックして手順2、手順3を実施してください。

以上で、【情報提供ツール「NECからのお知らせ」終了手順】は完了です。

.NET Framework Version 2.0以降のインストール後や修正・削除後、スタートメニューから［プログラム］をポイントし、［NECからのお知らせ］から［NECからのお知らせ］をクリックし、再度情報提供ツール「NECからのお知らせ」の実行、設定を実施してください。

障害情報の採取

万一障害が起きた場合、次の方法でさまざまな障害発生時の情報を採取することができます。

重要

- **以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から情報採取の依頼があったときのみ採取してください。**
- **障害発生後に再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。途中でリセットし、もう一度起動すると、障害情報が正しく採取できません。**

イベントログの採取

装置に起きたさまざまな事象（イベント）のログを採取します。

重要

STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

ヒント

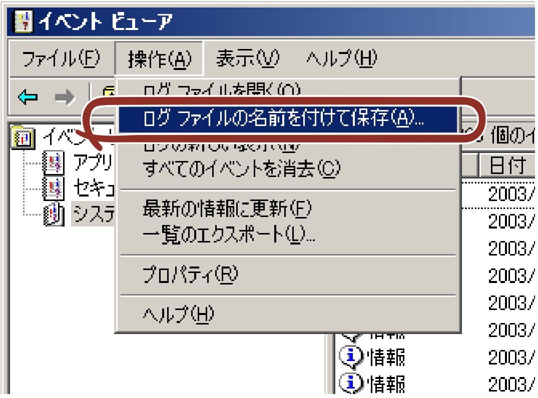
オプションのプロセッサの中には異なるレビジョン（ステッピング）のものが含まれている場合があります。異なるレビジョンのプロセッサを混在して取り付けた場合、Windowsではイベントビューアのシステムログに以下のようなログが表示されますが、動作には問題ありません。



1. コントロールパネルから［管理ツール］－［イベントビューア］をクリックする。
2. 採取するログの種類を選択する。

   ［アプリケーション ログ］には起動していたアプリケーションに関連するイベントが　記録されています。［セキュリティ ログ］にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。［システム ログ］にはWindowsのシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。

3. ［操作］メニューの［ログファイルの名前を付けて保存］コマンドをクリックする。



4. ［ファイル名］ボックスに保存するアーカイブログファイルの名前を入力する。
5. ［ファイルの種類］リストボックスで保存するログファイルの形式を選択し、［OK］をクリックする。

詳細についてはWindowsのオンラインヘルプを参照してください。

構成情報の採取

ハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。
情報の採取には「診断プログラム」を使用します。

重要 STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

1. スタートメニューの［設定］をポイントし、［コントロールパネル］をクリックする。

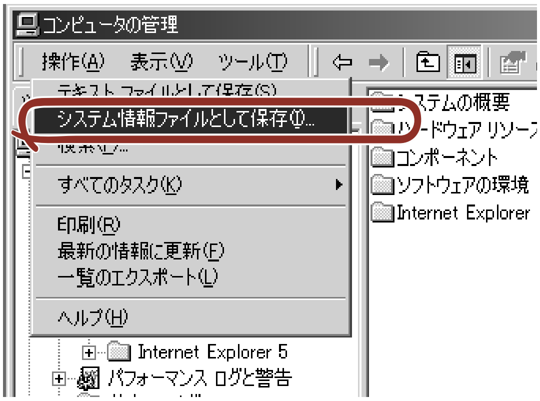
   ［コントロールパネル］ダイアログボックスが表示されます。

2. ［管理ツール］アイコンをダブルクリックし、[コンピュータの管理]アイコンをダブルクリックする。

   ［コンピュータの管理］ダイアログボックスが表示されます。

3. [システムツール]－[システム情報]をクリックする。

4. ［操作］メニューの［システム情報ファイルとして保存］コマンドをクリックする。



5. ［ファイル名］ボックスに保存するファイルの名前を入力する。
6. ［保存］をクリックする。

ユーザーモードプロセスダンプ（ワトソン博士の診断情報）の採取

アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。詳しくは「導入編」の「ユーザーモードプロセスダンプの取得方法」（126ページ）を参照してください。

メモリダンプの採取

障害が起きたときのメモリの内容をダンプし、採取します。ダンプをDATに保存した場合は、ラベルに「NTBackup」で保存したか「ARCServe」で保存したかを記載しておいてください。診断情報の保存先は任意で設定できます。詳しくは「メモリダンプ（デバッグ情報）の設定」（112ページ）を参照してください。

重要

- **保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。正常に動作しているときに操作するとシステムの運用に支障をきたすおそれがあります。**
- **障害の発生後に再起動したときに仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。途中でリセットして起動し直すと、データを正しくダンプできない場合があります。**

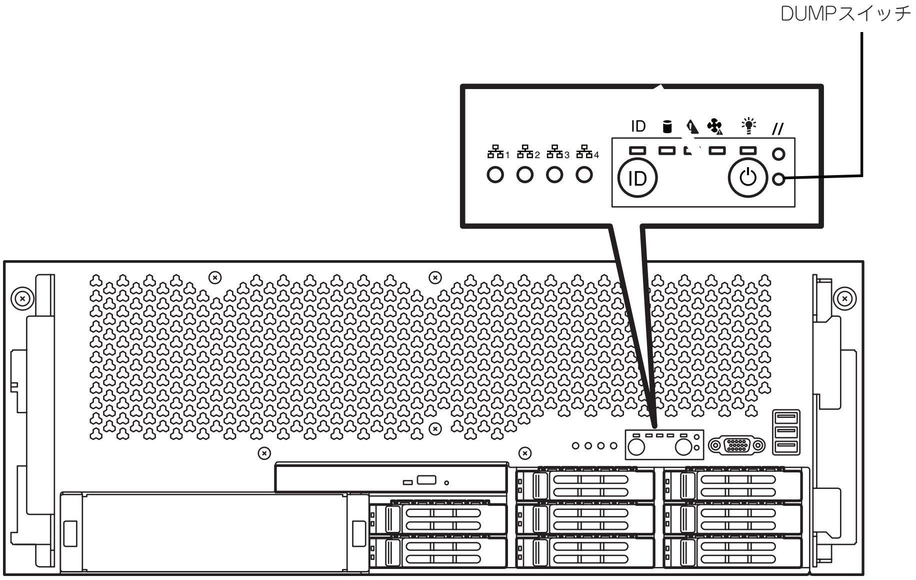
採取のための準備

DUMPスイッチを押してダンプを実行した後に本装置をリセットできなくなる場合があります。この場合、強制シャットダウン（336ページ参照）で本装置を強制的にリセットしなければならなくなりますが、BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」の「Security」メニューの「Power Switch Inhibit」を「Enabled」に設定しておくと、POWERスイッチの機能が無効になるため、強制シャットダウンができなくなります。
万一の場合、強制シャットダウンで本装置をリセットできるように次の手順に従って本装置の設定を変更しておいてください。

1. 本装置の電源をONにして、BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」を起動する（301ページ参照）。
2. 「Security」メニューの「Power Switch Inhibit」を「Disabled」に設定する。
3. 設定内容を保存して、SETUPを終了する。

メモリダンプの採取

障害が発生し、メモリダンプを採取したいときにDUMPスイッチを押してください。スイッチを押すときには金属製のピン（太めのゼムクリップを引き伸ばして代用できる）をスイッチ穴から斜めに差し込んでスイッチを押します。スイッチを押すと、メモリダンプは設定されている保存先に保存されます（CPUがストールした場合などではメモリダンプを採取できない場合があります）。



IPMI情報のバックアップ

IPMI情報を採取します。情報を採取するためには、ESMPRO/ServerAgentがインストールされていなければなりません。

1. スタートメニューから[プログラム]－[ESMPRO ServerAgent]－[ESRASユーティリティ]を選ぶ。

   [ESRASユーティリティ]ウィンドウが表示されます。

2. ツリービューより[最新情報]を選択して、ローカルコンピュータの情報を取得する。

   データが表示されれば取得ができたことになります。

3. [ファイル] メニューから[現在のIPMI情報をバックアップする]をクリックする。
4. バックアップ対象のコンピュータ名を確認する。
5. 退避するバックアップファイル名と保存する場所を指定して[バックアップ]をクリックする。

システムの修復

－Windows Server 2008 R2, Windows Server 2008の場合－

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、システム回復オプションを使用してシステムの修復を行うことができます。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者のもと実施してください。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

－Windows Server 2003 x64 Editions, Windows Server 2003の場合－

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステムの修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外にはお勧めできません。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

重要

- システムの修復後、必ずシステムをアップデートしてください。また、Windowsの場合は、システムのアップデートに加え、各種ドライバをアップデートしてください。詳しくは「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されている各OSのインストレーションサプリメントガイドの「システムのアップデート」、「ドライバのインストールと詳細設定」を参照してください。
- ハードディスクドライブが認識できない場合は、システムの修復はできません。

保守ツール

保守ツールは、本製品の予防保守、障害解析、設定等を行うためのツールです。

> 本書内の説明、および各種ツールのメッセージにおいてフロッピーディスクに関する記述がありますが、本製品はフロッピーディスクドライブを内蔵していません。オプションの Flash FDD を使用するか、USB FDD をお持ちの方は USB FDD を使用してください。

保守ツールの起動方法

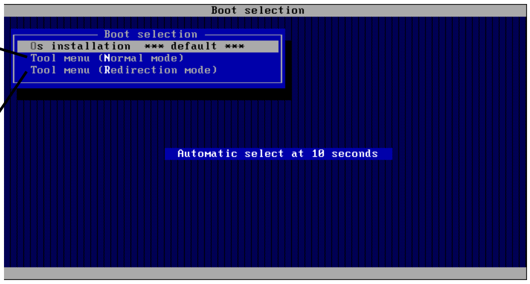
次の手順に従って保守ツールを起動します。

1. 周辺機器、Expressサーバの順に電源をONにする。
2. Expressサーバの光ディスクドライブへ「EXPRESSBUILDER」DVDをセットする。
3. DVDをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONしてExpressサーバを再起動する。

   DVDから以下のようなメニューが起動します。

Tool menu(Normal mode):
ローカルコンソールでツールを使用する場合に選択します。

Tool menu(Redirection mode):
コンソールレスでツールを使用する場合に選択します。



重要

> **メニューの初期選択は「Os installation」となっています。**
> **Boot Selectionメニュー表示後、10秒間操作が行われない場合は、「Os installation」が自動で起動します。**

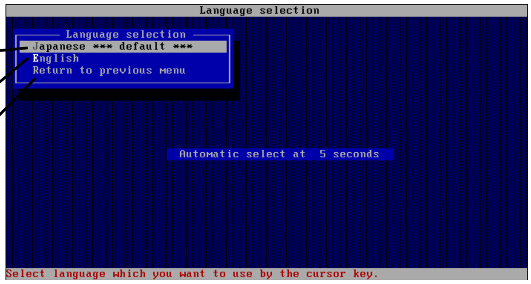
4. ローカルコンソールを使用する場合は「Tool menu(Normal mode)」を、コンソールレスで使用する場合は「Tool menu(Redirection mode)」を選択する。(コンソールレスについてはこの後の「コンソールレス」を参照してください。)

以下に示すLanguage selection メニューを表示します。

Japanese:
以降のメニューを日本語で表示します。

English:
以降のメニューを英語で表示します。

Return to previous menu:
Boot Selectionメニューを表示します。

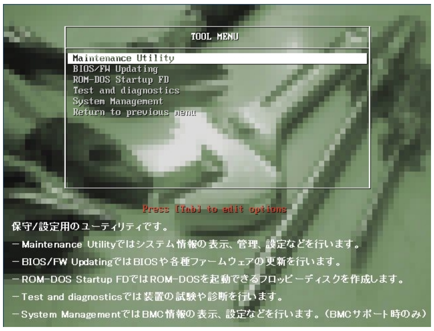


重要

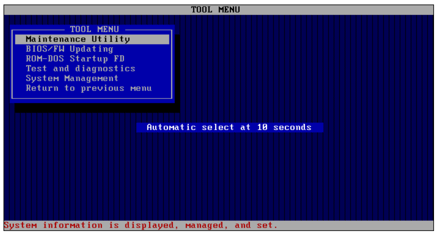
メニューの初期選択は「Japanese」となっています。
Language selection メニュー表示後、5秒間操作が行われない場合は、「Japanese」が自動で起動します。

5. 「Japanese」を選択する。

「Japanese」を選択すると次のツールメニューを表示します。



ローカルコンソールを使用した場合



コンソールレスの場合

6. 各ツールを選択し、起動する。

保守ツールの機能

保守ツールでは以下の機能を実行できます。

- **Maintenance Utility**

  Maintenance Utilityではオフライン保守ユーティリティを起動します。オフライン保守ユーティリティは、本製品の予防保守、障害解析を行うためのユーティリティです。ESMPROが起動できないような障害が本製品に起きた場合は、オフライン保守ユーティリティを使って障害原因の確認ができます。

  > 重要
  > **オフライン保守ユーティリティは通常、保守員が使用するプログラムです。オフライン保守ユーティリティを起動するとメニュー中にヘルプ（機能や操作方法を示す説明）がありますが、無理な操作をせずにオフライン保守ユーティリティの操作を熟知している保守サービス会社に連絡して、保守員の指示に従って操作してください。**

  オフライン保守ユーティリティを起動すると、以下の機能を実行できます。

  － IPMI情報の表示

  IPMI(Intelligent Platform Management Interface)におけるシステムイベントログ(SEL)、センサ装置情報(SDR)、保守交換部品情報(FRU)の表示やIPMI情報のバックアップをします。

  本機能により、本製品で起こった障害や各種イベントを調査し、交換部品を特定することができます。

  － BIOSセットアップ情報の表示

  BIOSの現在の設定値をテキストファイルへ出力します。

  － システム情報の表示

  プロセッサ(CPU)やBIOSなどに関する情報を表示したり、テキストファイルへ出力したりします。

  － システム情報の管理

  お客様の装置固有情報や設定のバックアップ（退避）をします。バックアップを行うことで、ボードの修理や交換の際に装置固有情報や設定を復旧できます。

  > ヒント
  > システム情報のバックアップ方法については、132ページで説明しています。なお、リストア（復旧）は操作を熟知した保守員以外は行わないでください。

  － システムマネージメント機能

  BMC(Baseboard Management Controller)による通報機能や管理PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。

- **BIOS/FW Updating**

弊社Webサイトの以下のページで配布される各種BIOS/FW（ファームウェア）のアップデートを使用して、本装置のBIOS/FWをアップデートすることができます。

http://support.express.nec.co.jp/pcserver/

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は、配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindowsのメモ帳などで読むことができます。

重要

BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

- **ROM-DOS　Startup FD**

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

- **Test and diagnostics**

Test and diagnostics（システム診断）では本体上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。464ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

- **System Management**

BMC（Baseboard Management Controller）による通報機能や管理PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。このメニューから起動する機能はMaintenance Utilityのシステムマネージメント機能から起動するものと同じです。

コンソールレス

保守ツールは、本体にキーボードなどのコンソールが接続されていなくても各種セットアップを管理用コンピュータ（管理PC）から遠隔操作することができる「コンソールレス」機能を持っています。

重要

- 本装置以外のコンピュータおよび他のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。
- コンソールレスでは、「Boot Selection」メニュー中の「Tool menu(Redirection mode)」を選択してください。その他を選択しても管理PCには表示しません。

起動方法

次の2通りの方法があります。

- LAN接続された管理PCから実行する
- ダイレクト接続（COM B）された管理PCから実行する

起動方法の手順については、「ESMPRO/ServerManager」インストレーションガイドを参照してください。

重要

- BIOSセットアップユーティリティのBootメニューで起動順序を変えないでください。光ディスクドライブが最初に起動するようになっていないと使用できません。
- LAN接続は管理用LANからのみ使用可能です。通常は管理用LANは管理用LANポートを使用します。SETUPを起動して「Server」－「BMC LAN Configuration」－「Shared BMC LAN」を[Enabled]に設定すると、LANポート1を管理用LANと共用することができます。
- ダイレクト接続はシリアルポートBのみ使用可能です。
- コンソールレスで本装置を遠隔操作するためには、操作する管理PCとの通信方法や詳細な設定を保存した「設定情報ファイル」を格納したフロッピーディスクを必ずフロッピーディスクドライブに挿入しておく必要があります。「設定情報ファイル」はツールメニューのシステムマネージメント機能や、ESMPRO/BMC ConfigurationまたはESMPRO/ServerAgent Extensionで作成することができます。「設定情報ファイル」はフロッピーディスクのルートディレクトリに必ず以下のファイル名で作成してください。
  ＜設定情報ファイル名>: CSL_LESS.CFG
- BIOSセットアップユーティリティを通常の終了方法以外の手段（電源OFFやリセット）で終了するとリダイレクションが正常にできない場合があります。設定ファイルで再度設定を行ってください。
- Windows Server 2008でCOMのダイレクト接続を行う場合は、デバイスマネージャでCOMポートを「無効」に設定して、リブートを実行してください。

ヒント

BIOS設定情報は以下の値にセットされます。

- Serial Port A: [Enabled]
- Serial Port A I/O Address: [3F8]
- Serial Port A Interrupt: [IRQ 4]
- Serial Port B: [Enabled]
- Serial Port B I/O Address: [2F8]
- Serial Port B Interrupt: [IRQ 3]
- BIOS Redirection Port: [Serial Port B]
- Baud Rate: [19.2K]
- Flow Control: [CTS/RTS]
- Console Type: [PC ANSI]

移動と保管

本体を移動・保管するときは保守サービス会社に連絡して、ラックからの取り外しを依頼してください。

⚠警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- リチウムバッテリを取り外さない
- プラグを差し込んだまま取り扱わない

⚠注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 中途半端に取り付けない
- 落下注意
- 装置を引き出した状態にしない
- カバーを外したまま取り付けない
- 指を挟まない
- 高温注意
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない

重要

- フロアのレイアウト変更など大掛かりな作業の場合はお買い上げの販売店または保守サービス会社に連絡してください。
- ハードディスクドライブに保存されている大切なデータはバックアップをとっておいてください。
- ハードディスクドライブを内蔵している場合はハードディスクドライブに衝撃を与えないように注意して本体を移動させてください。
- 再度、運用する際、内蔵機器や本体を正しく動作させるためにも室温を保てる場所に保管することをお勧めします。装置を保管する場合は、保管環境条件（温度：-10～55℃、湿度：20～80%）を守って保管してください（ただし、結露しないこと）。

1. 本体にフロッピーディスク、ディスクをセットしている場合は取り出す。
2. 本体の電源をOFF（POWERランプ消灯）にする。
3. 本体に接続している電源コードをコンセントから抜く。
4. 本体に接続しているケーブルをすべて取り外す。

5. ラックに搭載している場合は、169ページを参照して本体をラックから取り出す。
6. 3人以上で装置底面を持って運ぶ。

> **重要** 装置の前面のフロントベゼルを持って、持ち上げないでください。フロントベゼルが外れて落下し、けがをしたり装置を破損してしまいます。

7. 本体に傷がついたり、衝撃や振動を受けたりしないようしっかりと梱包する。

> **重要** 輸送後や保管後、装置を再び運用する場合は、運用の前にシステム時計の確認・調整をしてください。システム時計を調整しても時間の経過と共に著しい遅れや進みが生じる場合は、お買い求めの販売店、または保守サービス会社に保守を依頼してください。本装置、および、内蔵型のオプション機器は、寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと結露が発生し、そのまま使用すると誤動作や故障の原因となります。装置の移動後や保管後、再び運用する場合は、使用環境に十分なじませてからお使いください。

ユーザーサポート

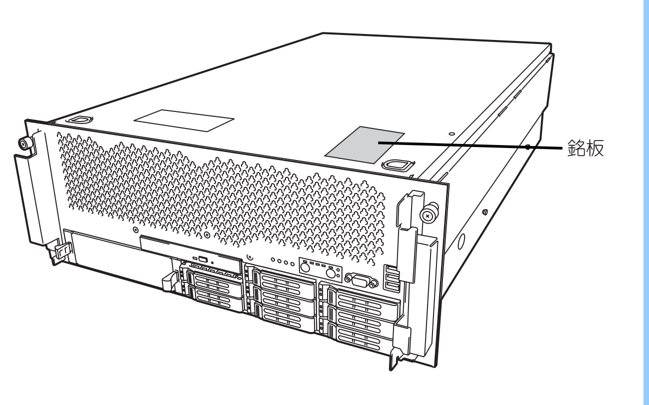
アフターサービスをお受けになる前に、保証およびサービスの内容について確認してください。

保証について

本装置には『保証書』が添付されています。『保証書』は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容を確認のうえ、大切に保管してください。保証期間中に故障が発生した場合は、『保証書』の記載内容にもとづき無償修理いたします。詳しくは『保証書』およびこの後の「保守サービスについて」をご覧ください。
保証期間後の修理についてはお買い求めの販売店、最寄りのNECまたは保守サービス会社に連絡してください。

重要

- 弊社製以外（サードパーティ）の製品、または弊社が認定していない装置やインタフェースケーブルを使用したために起きた装置の故障については、その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本体の上面に、製品の形式、SERIAL No.（号機番号）、定格、製造業者名、製造国が明記された銘板が貼ってあります。販売店にお問い合わせする際にこの内容をお伝えください。また銘板の号機番号と保証書の保証番号が一致していませんと、保証期間内に故障した場合でも、保証を受けられないことがありますのでご確認ください。万一違う場合は、販売店にご連絡ください。



バッテリの保証について

本装置には、内蔵の時計用のバッテリが内蔵されています。

－ 内蔵の時計用のバッテリ

本バッテリの保証期間は5年です。時計が停止したり、遅れるようになった場合は、保守サービス会社に連絡してください。

修理に出される前に

「故障かな？」と思ったら、以下の手順を行ってください。

1. 電源コードおよび他の装置と接続しているケーブルが正しく接続されていることを確認します。
2. 「障害時の対処（467ページ）」を参照してください。該当する症状があれば記載されている処理を行ってください。
3. 本装置を操作するために必要となるソフトウェアが正しくインストールされていることを確認します。
4. 市販のウィルス検出プログラムなどでサーバをチェックしてみてください。

以上の処理を行ってもなお異常があるときは、無理な操作をせず、お買い求めの販売店、最寄りのNECまたは保守サービス会社にご連絡ください。その際にサーバのランプの表示やディスプレイ装置のアラーム表示もご確認ください。故障時のランプやディスプレイによるアラーム表示は修理の際の有用な情報となることがあります。保守サービス会社の連絡先については、付録B「保守サービス会社網一覧」をご覧ください。
なお、保証期間中の修理は必ず保証書を添えてお申し込みください。

重要 **この装置は日本国内仕様のため、NECの海外拠点で修理することはできません。ご了承ください。**

修理に出される時は

修理に出される時は次のものを用意してください。

- □ 保証書
- □ ディスプレイ装置に表示されたメッセージのメモ
- □ 障害情報（539ページに記載している情報などが含まれます。障害情報は保守サービス会社から指示があったときのみ用意してください。）
- □ 本体・周辺機器の記録

補修用部品について

本装置の補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後5年です。

保守サービスについて

保守サービスはNECの保守サービス会社、およびNECが認定した保守サービス会社によってのみ実施されますので、純正部品の使用はもちろんのこと、技術力においてもご安心の上、ご都合に合わせてご利用いただけます。
なお、お客様が保守サービスをお受けになる際のご相談は、弊社営業担当または代理店で承っておりますのでご利用ください。保守サービスは、お客様に合わせて2種類用意しております。

保守サービスメニュー

契約保守サービス	お客様の障害コールにより優先的に技術者を派遣し、修理にあたります。この保守方式は、装置に応じた一定料金で保守サービスを実施させていただくもので、お客様との間に維持保守契約を結ばせていただきます。さまざまな保守サービスを用意しています。詳しくはこの後の説明をご覧ください。
未契約修理	お客様の障害コールにより、技術者を派遣し、修理にあたります。保守または修理料金はその都度精算する方式で、作業の内容によって異なります。

NECでは、お客様に合わせてさまざまな契約保守サービスを用意しております。
サービスの詳細については、「http://www.nec.co.jp/」をご覧ください。

重要

- **サービスを受けるためには事前の契約が必要です。**
- **サービス料金は契約する日数/時間帯により異なります。**

情報サービスについて

本製品に関するご質問・ご相談は「ファーストコンタクトセンター」でお受けしています。
※　電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

ファーストコンタクトセンター
TEL. 03-3455-5800（代表）

受付時間／9:00〜12:00、13:00〜17:00　月曜日〜金曜日（祝祭日を除く）

お客様の装置本体を監視し、障害が発生した際に保守拠点からお客様に連絡する「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)」の申し込みに関するご質問・ご相談は「エクスプレス受付センター」でお受けしています。
※　電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

エクスプレス受付センター
TEL. 0120-22-3042

受付時間／9:00〜17:00　月曜日〜金曜日（祝祭日を除く）

インターネットでも情報を提供しています。

[NEC コーポレートサイト]　http://www.nec.co.jp/

製品情報やサポート情報など、本製品に関する最新情報を掲載しています。

http://www.fielding.co.jp/
NECフィールディング（株）ホームページ：メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報をご紹介しています。

メ　モ